

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄							備考
計画の区分		大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者		カクコリホジシヨ トヨウガクエン 学校法人 東洋学園							
フリガナ大学の名称		トヨウガクエンダイガク 東洋学園大学（Toyo Gakuen University）							
大学本部の位置		東京都文京区本郷1丁目26番3号							
大学の目的		東洋学園大学は、学校教育法に基づき、専門の学芸の研究教育を行い、高い理想のもとに深い教養と正しい判断力を身につけ、広い視野と、国際的な識見を備えた有能な人材を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的		現代経営学部現代経営学科、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科及びグローバル・コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の入学定員について、近年の志願者数・入学者数を鑑み、各学科の収容定員を見直し、適正な定員を設定することを目的とし、学則を変更する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	現代経営学部 【Faculty of Business Administration】	年	人	年次人 3年次	人		年 月 第 年次		
	現代経営学科 【Department of Business Administration】	4	245 (215)	35 (35)	1,050 (930)	学士（経営学） 【Bachelor of Business Administration】	令和5年4月 第1年次	東京都文京区本郷1丁目26番3号	
	グローバル・コミュニケーション学部 【Faculty of Global Communications】								
	グローバル・コミュニケーション学科 【Department of Global Communications】	4	110 (120)	10 (10)	460 (500)	学士（グローバル・コミュニケーション学） 【Bachelor of Global Communications】	令和5年4月 第1年次	同上	
	英語コミュニケーション学科 【Department of English Communications】	4	100 (120)	10 (10)	420 (500)	学士（英語コミュニケーション学） 【Bachelor of English Communications】	令和5年4月 第1年次	同上	
	計		-	-	-				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		該当なし							

教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数							
			講義	演習	実験・実習	計								
			科目	科目	科目	科目		単位						
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等					
			教授	准教授	講師	助教	計	助手						
	新設分		人	人	人	人	人	人	人					
		現代経営学部 現代経営学科	9 (9)	8 (8)	6 (6)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	68 (68)					
		計	9 (9)	8 (8)	6 (6)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	68 (68)					
	既設分	グローバル・コミュニケーション学部	5 (5)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	71 (71)					
		グローバル・コミュニケーション学科												
		グローバル・コミュニケーション学部	7 (7)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	72 (72)					
		英語コミュニケーション学科												
		人間科学部	10 (10)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	71 (71)					
		人間科学科												
		英語教育開発センター	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	31 (31)					
	計	22 (22)	14 (14)	13 (13)	1 (1)	50 (50)	0 (0)	245 (245)						
	合 計		31 (31)	22 (22)	19 (19)	1 (1)	73 (73)	0 (0)	313 (313)					
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計							
	事 務 職 員		74 (74)		10 (10)		84 (84)							
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)							
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)		2 (2)		5 (5)							
	そ の 他 の 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)							
	計		78 (78)		12 (12)		90 (90)							
校地等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
	校 舎 敷 地		4,002.00 m ²		0 m ²		0 m ²		4,002.00 m ²					
	運 動 場 用 地		24,213.00 m ²		0 m ²		0 m ²		24,213.00 m ²					
	小 計		28,215.00 m ²		0 m ²		0 m ²		28,215.00 m ²					
	そ の 他		55,659.00 m ²		0 m ²		0 m ²		55,659.00 m ²					
	合 計		83,874.00 m ²		0 m ²		0 m ²		83,874.00 m ²					
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
			16,452.57 m ² (16,452.57 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		16,452.57 m ² (16,452.57 m ²)					
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設					
	室		室		室		室 (補助職員 人)		室 (補助職員 人)					
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称				室 数							
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点	
			〔 〕 (〔 〕)		〔 〕 (〔 〕)		〔 〕 (〔 〕)		〔 〕 (〔 〕)		〔 〕 (〔 〕)			
	計		〔 〕 (〔 〕)		〔 〕 (〔 〕)		〔 〕 (〔 〕)		〔 〕 (〔 〕)		〔 〕 (〔 〕)			
	図書館		面積		閲覧座席数				収 納 可 能 冊 数					
m ²														
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要										
		m ²												

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次
		教員 1 人当り研究費等		300 千円	300 千円	300 千円	300 千円	- 千円	- 千円
		共 同 研 究 費 等		2,500 千円	2,500 千円	2,500 千円	2,500 千円	- 千円	- 千円
		図 書 購 入 費	26,656 千円	26,656 千円	26,656 千円	26,656 千円	26,656 千円	- 千円	- 千円
		設 備 購 入 費	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	- 千円	- 千円
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		1,400 千円	1,100 千円	1,100 千円	1,100 千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、手数料収入、資産運用収入等による						
既設大学等の状況	大 学 の 名 称東洋学園大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地
	【学部】	年	人	年次人	人		倍		
	グローバル・コミュニケーション学部						0.88		
	グローバル・コミュニケーション学科	4	120	3年次10	500	学士(グローバル・コミュニケーション学)	0.87	平成25年度	東京都文京区本郷1丁目26番3号
	英語コミュニケーション学科	4	120	3年次10	500	学士(英語コミュニケーション学)	0.89	平成25年度	同上
	人間科学部						1.02		
	人間科学科	4	200	3年次20	840	学士(心理学)	1.02	平成14年度	同上
	現代経営学部						1.02		
	現代経営学科	4	215	3年次35	930	学士(経営学)	1.02	平成14年度	同上
【大学院】									
現代経営研究科									
現代経営専攻	2	10	-	20	修士(経営学)	0.55	平成20年度	同上	
附属施設の概要		なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人東洋学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東洋学園大学				→	東洋学園大学				
		3年次					3年次		
現代経営学部 現代経営学科	<u>215</u>	35	<u>930</u>		現代経営学部 現代経営学科	<u>245</u>	35	<u>1050</u>	定員変更(30)
グローバル・コミュニケーション学部		3年次			グローバル・コミュニケーション学部		3年次		
グローバル・コミュニケーション学科	<u>120</u>	10	<u>500</u>		グローバル・コミュニケーション学科	<u>110</u>	10	<u>460</u>	定員変更(△10)
		3年次					3年次		
英語コミュニケーション学科	<u>120</u>	10	<u>500</u>		英語コミュニケーション学科	<u>100</u>	10	<u>420</u>	定員変更(△20)
		3年次					3年次		
人間科学部 人間科学科	200	20	840		人間科学部 人間科学科	200	20	840	
計	655	75	2770		計	655	75	2770	
東洋学園大学大学院				→	東洋学園大学大学院				
現代経営研究科 現代経営専攻(M)	10	-	20		現代経営研究科 現代経営専攻(M)	10	-	20	
計	10	-	20		計	10	-	20	

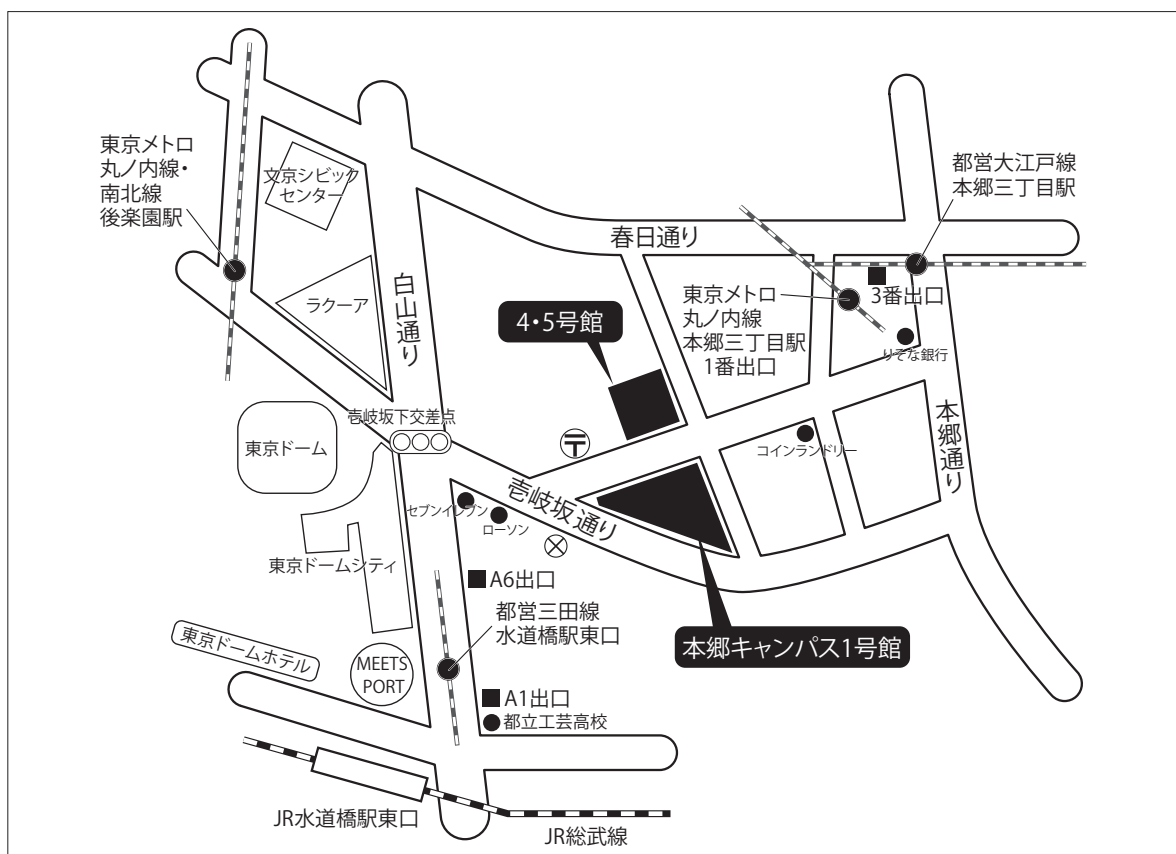
① 都道府県内における位置関係の図面



出典：国土地理院ウェブサイト (<https://www.gsi.go.jp/>)

②最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面

東京・本郷キャンパス



JR総武線「水道橋」駅から徒歩7分

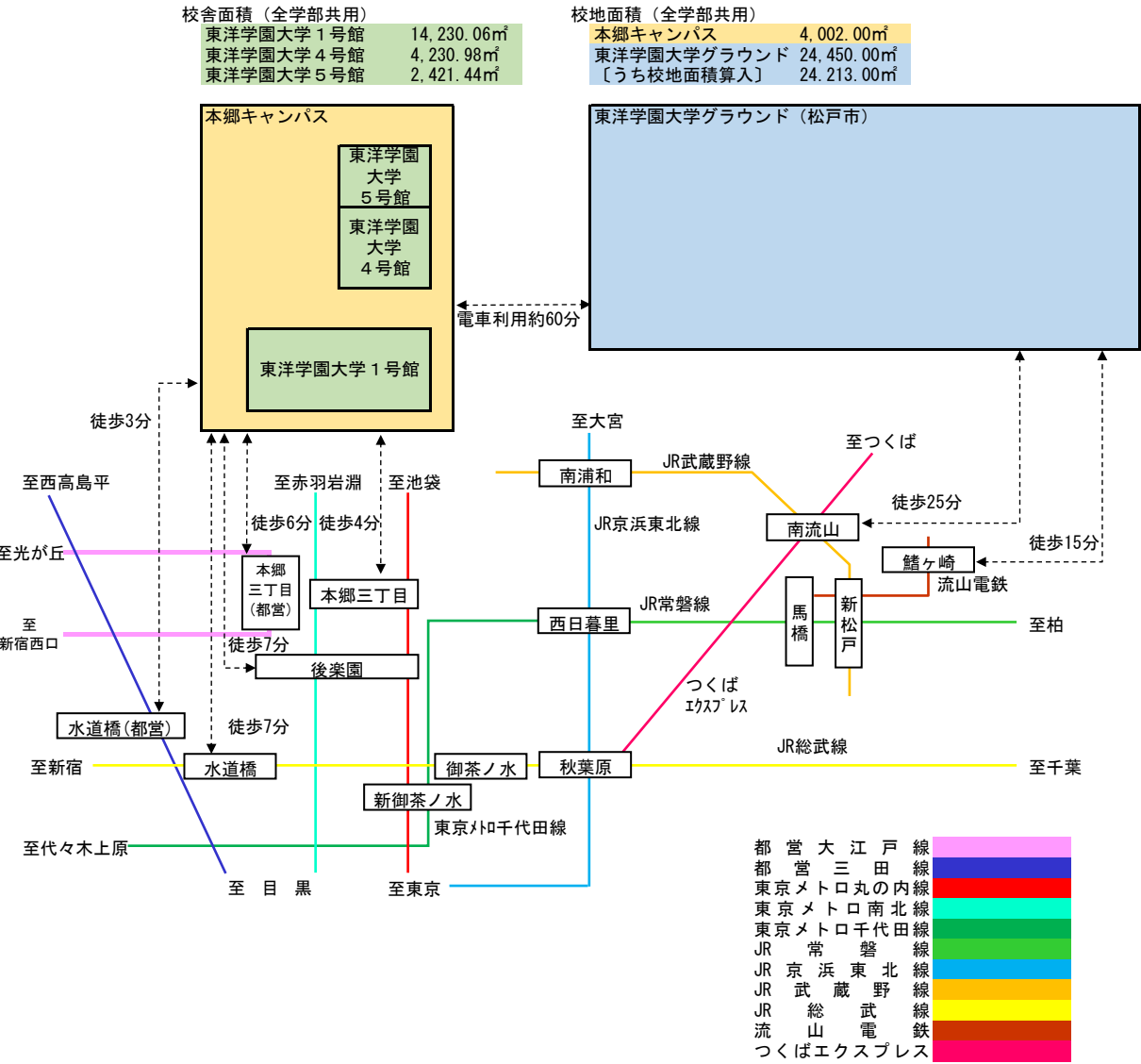
都営三田線「水道橋」駅から徒歩3分

東京メトロ丸ノ内線「本郷三丁目」駅から徒歩4分

都営大江戸線「本郷三丁目」駅から徒歩6分

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後樂園」駅から徒歩7分

③校舎、運動場等の配置図



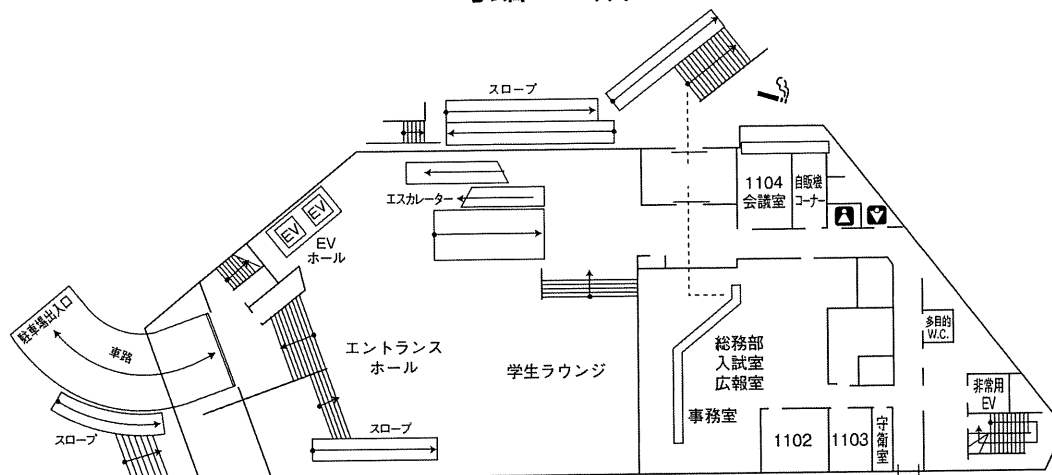
校地校舎図面-3

④校舎の平面図

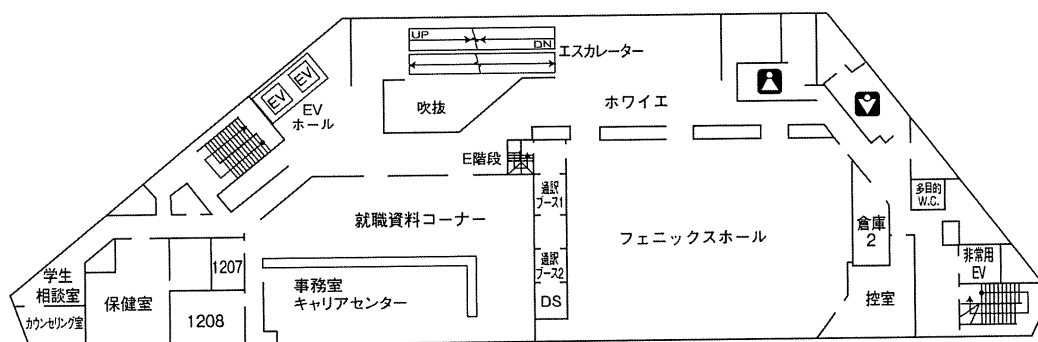
施設ごとの面積

1号館		4・5号館	
学食	460.00㎡	教室	2409.00㎡
図書館	841.00㎡	研究室	109.67㎡
教室	1258.32㎡	体育施設	85.00㎡
研究室	1270.17㎡	その他	4048.75㎡
体育施設	851.00㎡		
その他	9549.57㎡		

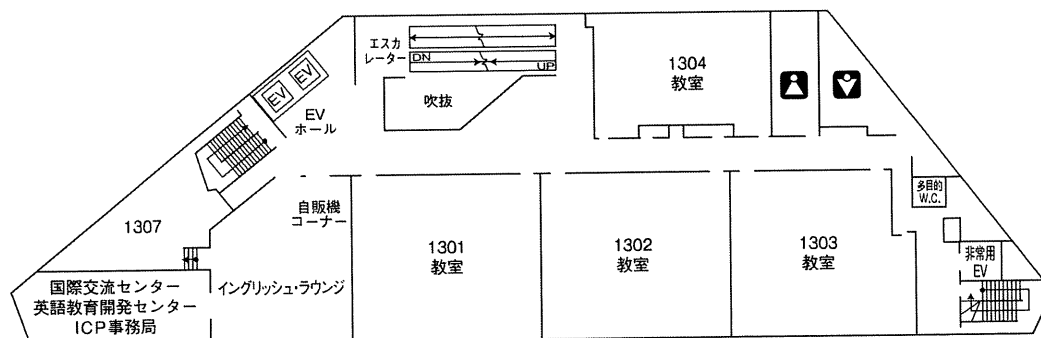
1号館 1階



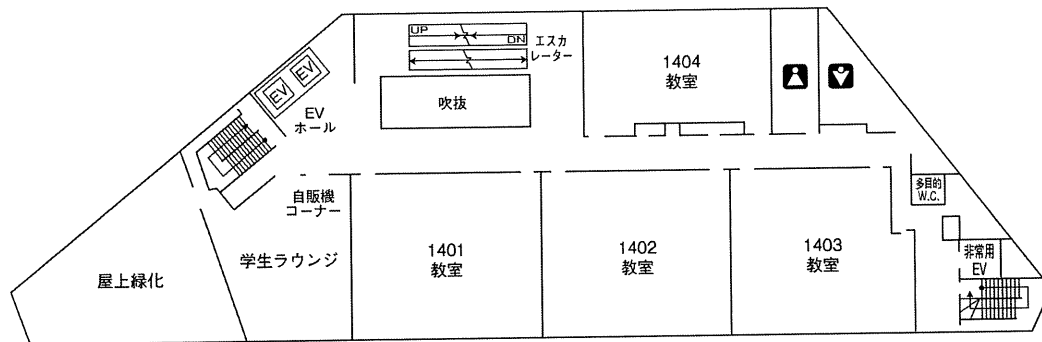
1号館 2階



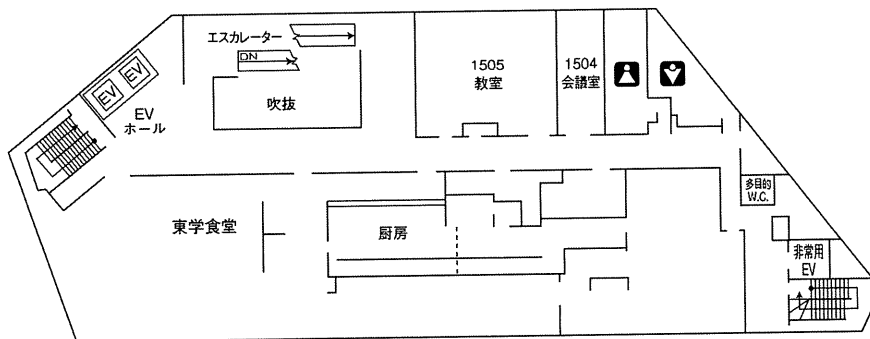
1号館 3階



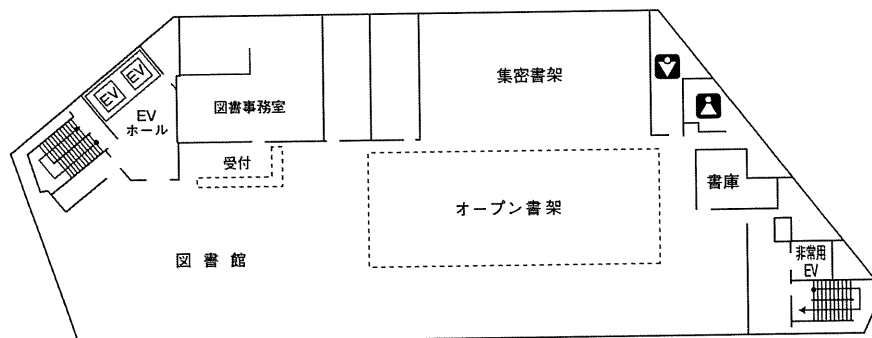
1号館 4階



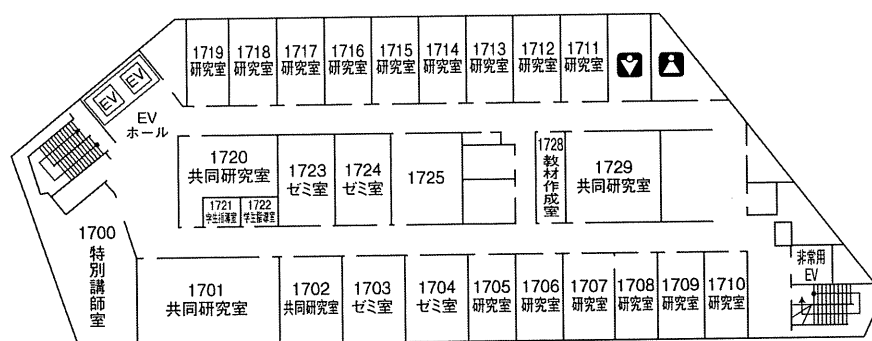
1号館 5階



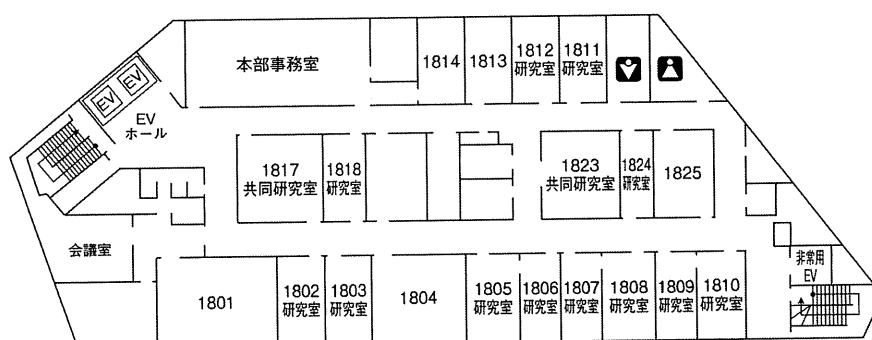
1号館 6階



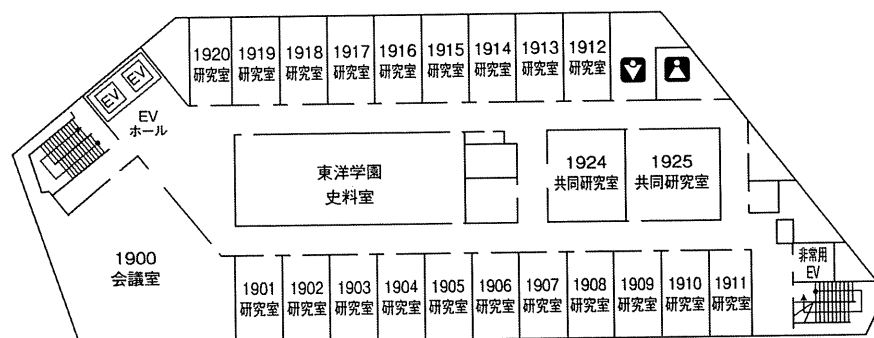
1号館 7階



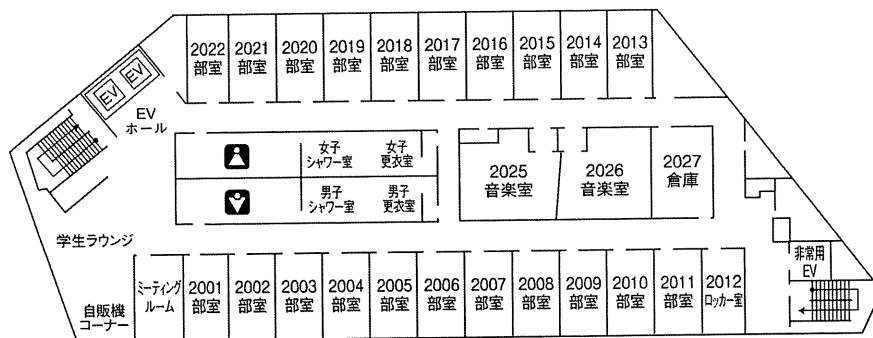
1号館 8階



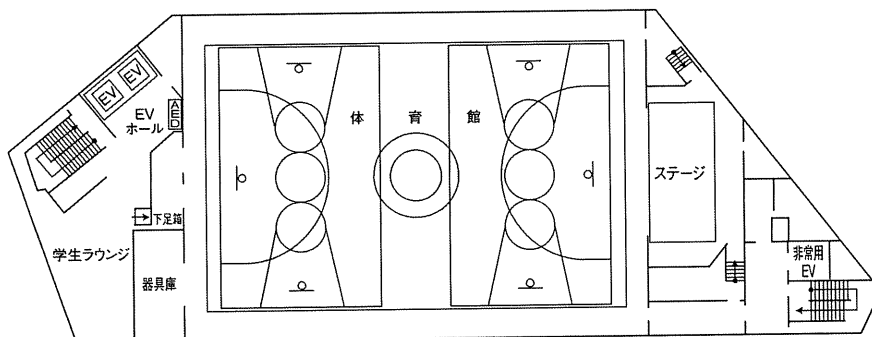
1号館 9階



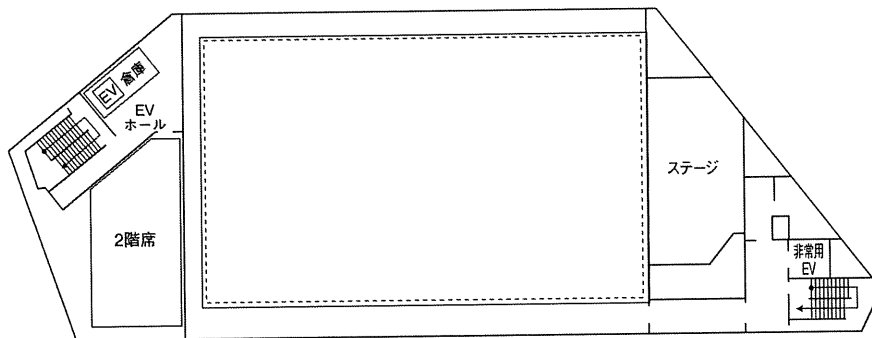
1号館 10階



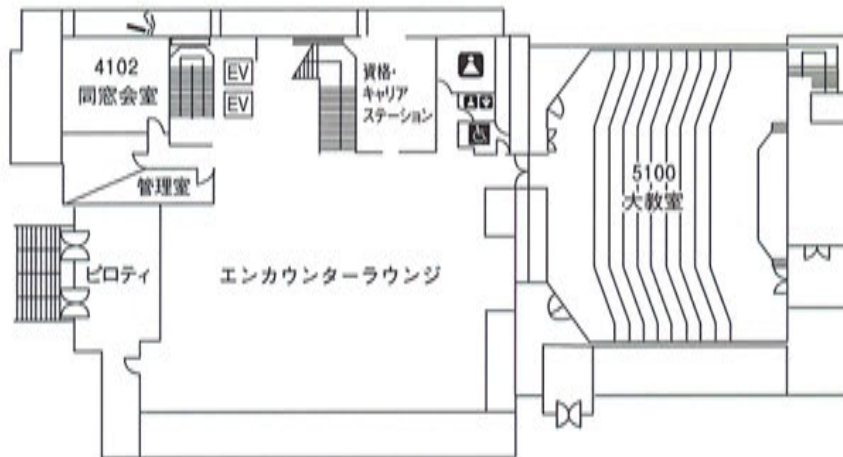
1号館 11階



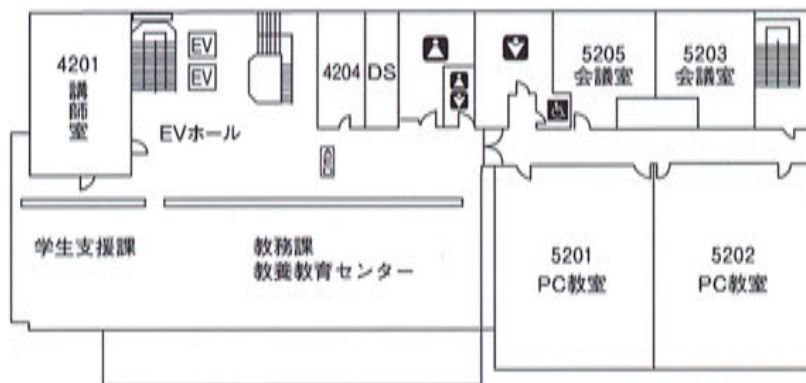
1号館 12階



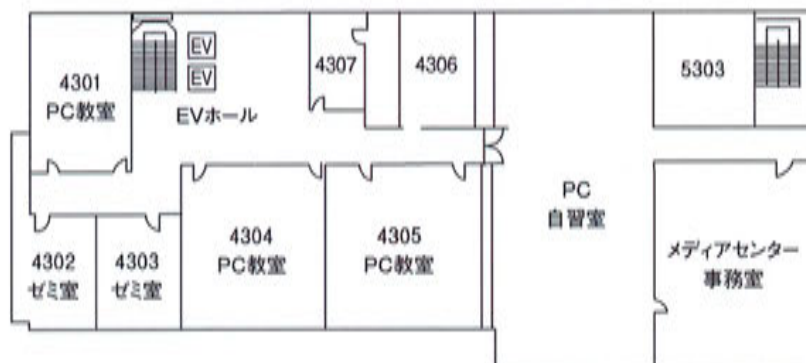
4・5号館 1階



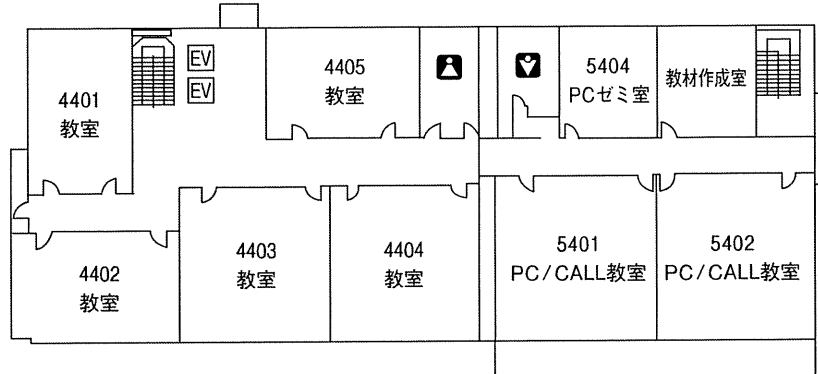
4・5号館 2階



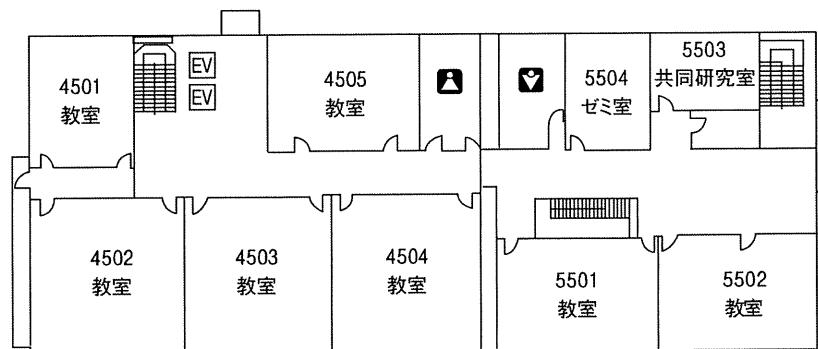
4・5号館 3階



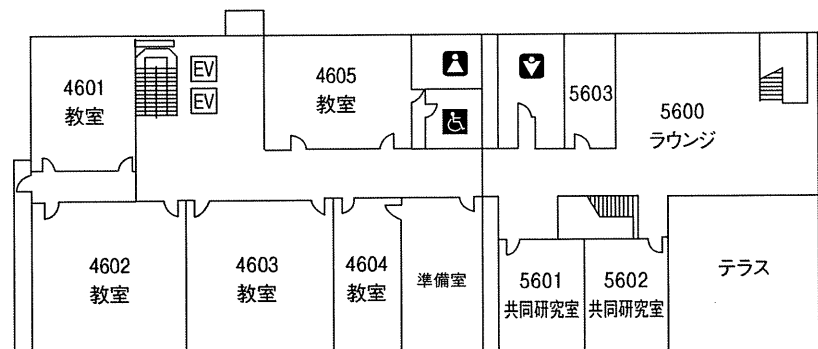
4・5号館 4階



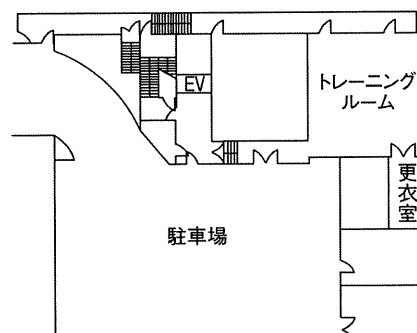
4・5号館 5階



4・5号館 6階



4号館 B1



東洋学園大学学則（案）

目 次

第1章	総則・・・2
第2章	大学等の組織、学生定員及び修業年限・・・2
第3章	学年、学期及び休業日・・・4
第4章	入学、編入学、休学、復学、再入学、転入学、転部及び転科・・・4
第5章	退学、転学、除籍及び復籍・・・7
第6章	教育課程及び履修方法等・・・8
第7章	卒業等・・・8
第8章	外国人留学生及び帰国学生・・・10
第9章	科目等履修生及び特別聴講学生・・・10
第10章	検定料、入学金、授業料その他の納付金・・・11
第11章	職員及び事務組織・・・12
第12章	教授会・・・12
第13章	賞罰・・・14
第14章	図書館・・・14
第15章	附属施設・・・14
第16章	研究施設・・・15
第17章	課外及び自治活動の指導・・・15
第18章	課外講座・・・15
第19章	保健及び厚生・・・15
第20章	学則の変更・・・16
附 則	・・・16
別 表1	・・・20
別 表2	・・・36

第1章 総則

(目的)

第1条 東洋学園大学は、学校教育法に基づき、専門の学芸の研究教育を行い、高い理想のもとに深い教養と正しい判断力を身につけ、広い視野と、国際的な識見を備えた有能な人材を育成することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の教育目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制については、別に定める。

第2章 大学等の組織、学生定員及び修業年限

(大学等の組織)

第3条 本学は、学部及び大学院から成る。大学院学則については、別に定める。

2 本学学部には、グローバル・コミュニケーション学部、人間科学部及び現代経営学部の3学部を置く。

グローバル・コミュニケーション学部にはグローバル・コミュニケーション学科及び英語コミュニケーション学科、人間科学部に人間科学科、現代経営学部に現代経営学科の各学科を置く。

3 グローバル・コミュニケーション学部は、様々な社会事象を正確に判断し、自己の考えを的確に発信することができるコミュニケーション能力と英語による情報や相手の意向などを理解し、自分の考えなどを表現することができるコミュニケーション能力を身に付けた人材を広く社会に輩出することにより、グローバル社会の発展と向上に貢献する人材の育成を目的とする。

(1) グローバル・コミュニケーション学科は、自国や諸外国の地域や文化、社会に関する知識の理解を深めるとともに、現代社会における重要な主題や現代社会が直面する諸課題に関する知識及び社会事情について総合的に理解することにより、実際に生起する社会事象を正確に判断し、自己の考えを的確に発信することができる現代教養人としてのコミュニケーション能力を有して、ビジネスや文化交流、社会活動、地域貢献などの幅広い分野で中核的な役割を担うことができる人材の養成を目指す。

(2) 英語コミュニケーション学科は、英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の情報や相手の意向などを理解し、自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力を養うとともに、英語に関する専門的な知識の理解のもとに、英語教育に関する基礎理論や指導法について理解することにより、国際社会や英語教育活動に必要となるコミュニケーション能力を有して、国際関連産業や文化関連産業、教育関連産業などの幅広い分野で活躍することができる人材の養成を目指す。

4 人間科学部人間科学科は、人間に関わる諸問題を深く多角的に理解することにより、人のこころとからだの健康の維持・増進・改善等に参加し、充実した幸せな暮らしの実現に寄与することのできる能力、および社会の様々な場面における人間関係を調整する能力を修得し、豊かで実りある人と人とのつながりの実現に貢献することのできる人材の育成を目指す。

5 現代経営学部現代経営学科は、変貌を遂げる社会的環境の中で、多様化、高度化、複雑化、国際化する現代的な経営課題を的確に認識し、現代的な視点から問題解決ができる基礎的な知識や能力に加えて、21 世紀の現代の社会人に求められている幅広い視野と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成を目的とする。

(学生定員)

第4条 本学学部及び学科の学生定員は次のとおりとする。

学部学科名	入学定員	編入学定員	総定員
(第3年次)			
グローバル・コミュニケーション学部			
グローバル・コミュニケーション学科	110名	10名	460名
英語コミュニケーション学科	100名	10名	420名
人間科学部			
人間科学科	200名	20名	840名
現代経営学部			
現代経営学科	245名	35名	1,050名
合計	655名	75名	2,770名

(修業年限及び在学年限)

第5条 本学学部の修業年限は4年とする。

- 2 在学年限は8年を超えることができない。
- 3 編入学、転入学の場合にあつては、学長が定める在学すべき年数の二倍に相当する年数を超えることができない。
- 4 再入学、復籍、転部又は転科の場合にあつては、退学、除籍、転部又は転科前の在学年数と通算して8年を超えることができない。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 本学1年間の授業日数は、定期試験等の日数を含め、35週にわたることを原則とする。学年を、春学期、秋学期の2期に分け、春学期を4月1日より9月15日までとし、秋学期を9月16日より翌年3月31日までとする。

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 創立記念日 5月1日
 - (4) 春季休業日 3月16日より3月31日迄
 - (5) 夏季休業日 8月1日より9月15日迄
 - (6) 冬季休業日 12月21日より翌年1月7日まで
- 2 必要のある場合、学長は前項の休業日を臨時に変更することができる。
 - 3 第1項に定めるもののほか、学長は臨時の休業日を定めることができる。

第4章 入学、編入学、休学、復学、再入学、転入学、転部及び転科

(入学の時期)

第9条 入学の時期は毎学年の始めとする。

- 2 前項の他にも、必要と認めた場合は、学期の区分に従い入学することができる

る。

(入学の資格)

第10条 本学学部の入学者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が三年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本学において、個別の入学者審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(編入学)

第11条 次の各号の一に該当する者で、本学学部への編入学を志望する者があるときは、選考の上入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準（修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時数が1700時間以上）を満たすものを修了した者（但し、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る）
- (5) 外国において学校教育における14年の課程を修了した者
- (6) 高等学校の専攻科の課程（修業年限が2年以上であること、その他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る）を修了した者
- (7) 本学において、個別の入学者審査により認めた者

2 前項の規定により入学を許可された者の、既に履修した授業科目及び修得した単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

3 前項の規定により認定換算することができる単位数は62単位を上限とする。

4 編入学に関する細則は別に定める。

(入学の出願)

第12条 入学を志願する者は、本学所定の書類に検定料を添えて提出しなければならない。提出の時期、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第13条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第14条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに所定の書類を提出するとともに、所定の学納金を納付しなければならない。

2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(保証人)

第15条 学生は入学時、保証人を本学に届出なければならない。

保証人は、保証する学生の身上について一切の責任を負う。

2 保証人の資格その他については別に定める。

(休学)

第16条 病気その他の理由で、引続き2ヵ月以上出席できない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められた者については、学長は休学を命ずることができる。

3 学長は、教育上有益と認められた者については、休学することなく、外国の大学又は短期大学等に留学することを許可することができる。なお、当該留学期間に係る在学年数の取り扱いについては、別に定める。

(休学の期間)

第17条 休学期間は、第5条の在学年数に算入しない。

2 休学の期間は、春学期末又は秋学期末を終期とし、連続して2年を超えることは出来ない。

3 休学の期間は、通算で4年を超えることは出来ない。

(復学)

第18条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

できる。

2 復学の時期は原則として期の始めとする。

(再入学及び転入学)

第 19 条 再入学、もしくは他の大学から転入学を志望する者があるときは、欠員のあ
る場合に限り、選考の上相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定により入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数
の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定す
る。

(転部及び転科)

第 20 条 他学部、もしくは他学科への転部又は転科を志望する者があるときは、当該
転部又は転科に係る学部の教授会の議を経てこれを許可することがある。

2 前項の規定により転部又は転科を許可された者の、既に修得した授業科目及
び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、転部又は転科先の学部の
教授会の議を経て学長が決定する。

第 5 章 退学、転学、除籍及び復籍

(退学及び転学)

第 21 条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

2 他の大学へ転学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍及び復籍)

第 22 条 次の各号の一に該当する者は学長が学部教授会の議を経てこれを除籍する。

(1) 第 5 条に規定した在学年限を超える者

(2) 休学の期間が連続して 2 年を超え、なお修学できない者

(3) 長期間にわたり行方不明の者

(4) 授業料その他納付金を所定の期日までに納めず、督促してもなお納付
しない者

2 前項(4)号により除籍された者が復籍を願い出るときは、選考の上、相当
年次に復籍することができる。

3 前項の規定により復籍を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数
の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定す
る。

第6章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第23条 本学学部を設置する授業科目の種類、単位数等は別表1のとおりとする。

- 2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項に定める授業科目を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(単位の計算方法)

第24条 各授業科目の単位数は、45時間の学修を要する内容をもって1単位とすることを標準として、次の基準により単位計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目についてはこれらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(単位の授与及び学習の評価)

第25条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。学習評価の基準は、A、B、C、Dの4段階とし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。成績審査の方法は、教授会の議を経て学長が定める。

第7章 卒業等

(卒業の要件)

- 第26条 学部学生は卒業のため、在学中に別表1の定めに従って、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科、人間科学部人間科学科並びに現代経営学部現代経営学科において124単位以上を修得しなければならない。
- 2 前項の規定に加え、GPA (Grade Point Average) が、2.0以上なければならない。
 - 3 外国人留学生、帰国学生の卒業の要件については別に定める。
 - 4 第1項の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第23条第

2 項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第27条 本学は、教育上有益と認めるときは、学部学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、教授会の議を経て60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得した単位とみなし、第26条に規定する卒業に必要な単位数に含めることができる。

2 前項の規定は、学部学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第28条 本学は、教授会の議を経て学長が教育上有益と認めるときは、学部学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位数を与え、第26条に規定する卒業に必要な単位数に含めることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項により本学において修得したものとみなした単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第29条 本学は、教育上有益と認めるときは、学部学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学は、教育上有益と認めるときは、学部学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第27条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(卒業)

第30条 学部学生が4年以上在学し、第26条により所定の要件を満たしたとき、学長は教授会の議を経て卒業を認定し、学位記を授与する。

2 卒業の時期に関する規程は別に定める。

(学位)

第31条 前条により、本学グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュ

ニケーション学科の卒業を認められた者には、学士（グローバル・コミュニケーション学）の学位を授与する。

2 グローバル・コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の卒業を認められた者には、学士（英語コミュニケーション学）の学位を授与する。

3 人間科学部人間科学科の卒業を認められた者には、学士（心理学）の学位を授与する。

4 現代経営学部現代経営学科の卒業を認められた者には、学士（経営学）の学位を授与する。

（資格の取得）

第 32 条 教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。

2 本学において、所要資格を取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科は次のとおりとする。

学部学科名	免許状の種類及び免許教科
グローバル・コミュニケーション学部	
英語コミュニケーション学科	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）

第 8 章 外国人留学生及び帰国学生

（外国人留学生）

第 33 条 外国人が、大学教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願するときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生の本学学部への入学に関しては第 10 条から第 15 条の規定を適用する。

3 外国人留学生には本学則その他本学の定める諸規程を準用する。

4 その他外国人留学生に関する規程は別に定める。

（帰国学生）

第 34 条 外国において、相当の期間、中等教育（国内の中学校又は高等学校に対応する学校における教育）を受けた日本国籍を有する者が、本学学部に入學を志願するときは、選考の上帰国学生として入学を許可することができる。

2 帰国学生の本学学部への入学に関しては第 10 条から第 15 条の規定を適用する。

- 3 帰国学生には本学則その他本学の定める諸規程を準用する。
- 4 その他帰国学生に関する規程は別に定める。

第9章 科目等履修生及び特別聴講学生

(科目等履修生)

- 第35条 第10条に規定する資格を有する者で、本学学部の特定授業科目につき履修しようとする者があるときは、その授業及び研究を妨げない限り、学長は教授会の議を経て、科目等履修生としてこれを許可することができる。
- 2 科目等履修生には、本学学則第25条の規定を準用して単位を与えることができる。
 - 3 科目等履修生に関する規程は別に定める。

(特別聴講学生)

- 第36条 他の大学又は短期大学の学生で、当該大学又は短期大学との協議により、本学の授業科目を履修し単位を修得しようとする者は、特別聴講学生として履修を許可することがある。
- 2 前項の規定は、大学又は短期大学以外の教育施設等との協議により、本学の授業科目を履修し単位を修得しようとする場合にも準用する。
 - 3 第1項の規定は、外国の大学又は短期大学の学生で、当該大学又は短期大学との協議により、本学の授業科目を履修し単位を修得しようとする場合にも準用する。
 - 4 特別聴講学生に関する規程は別に定める。

第10章 検定料、入学金、授業料その他の納付金

(検定料等の金額)

- 第37条 検定料、入学金、授業料その他の納付金については別表2のとおりとする。
- 2 入学金、授業料その他の納付金は所定の期日までに納めなければならない。

(休学及び退学等の場合の授業料等)

- 第38条 休学期間の授業料は半額とし、維持費、施設設備費は徴収しない。但し、休学した日及び復学した日に属する期分の授業料その他の納付金は全額を徴収する。

2 前項但書にかかわらず、休学した日に属する期分の授業料その他の納付金を徴収する場合において、休学した日が学期の開始日であるときは、前項本文の規定を適用する。

3 学期の途中で退学し又は除籍された者の当該期分の授業料その他の納付金は徴収する。

4 停学期間中の授業料その他の納付金は徴収する。

(納付金の取扱)

第 39 条 既に納めた入学金、授業料その他の納付金はいかなる場合も返却しない。但し、入学時の授業料等納付金については別に定める。

第 11 章 職員及び事務組織

(職員組織)

第 40 条 本学に、学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他必要な職員を置く。

(学長の職務)

第 41 条 学長は、本学を代表し、校務を掌り、所属職員を統督する。

2 学長は、必要に応じ、その職務を補佐する者、若干名を委嘱することができる。

(副学長の職務)

第 42 条 副学長は、学長の職務を助け、又、学長の命を受けた職務を行う。

(教員の職務)

第 43 条 教授は、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

2 准教授、講師、助教は、教授に準ずる職務に従事する。

3 助手は、教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

(職員の任用)

第 44 条 職員の任用は、学校法人の人事規程によって行う。

(事務組織)

第 45 条 事務の組織及び業務については別に定める。

第 12 章 教授会

(教授会の構成)

第 46 条 本学学部に必要な教授会を置く。教授会は学部長、教授、准教授、講師により構成される。

(1) グローバル・コミュニケーション学部教授会

(2) 人間科学部教授会

(3) 現代経営学部教授会

2 前項第 3 号に定める教授会は、当該学部の学部長、教授、准教授、講師並びに本学大学院現代経営研究科の研究科長、専攻長、教授、准教授、講師により構成される。

(議長)

第 47 条 教授会は学部長が招集し、その議長となる。

2 学部長に事故あるときは、学部長は代理を指名する。

(開会の条件)

第 48 条 教授会は、構成員の三分の二以上の出席がなければ、開会することができない。

(決議)

第 49 条 教授会の決議は、出席者の過半数の同意による。賛否同数のときは議長の裁決による。

(教授会の招集請求)

第 50 条 学部長は、構成員の三分の二以上から附議すべき事項を示して教授会の招集を請求された場合、2 週間以内にこれを招集しなければならない。

(審議事項)

第 51 条 教授会は学長が定める次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 授業科目の編成、変更及び実施に関する事項

(2) 学生の入学、退学、休学、転学、除籍、転部、転科、留学及び卒業に関する事項

(3) 学位の授与に関する事項

(4) 学生の訓育指導及び賞罰に関する事項

(5) 教員の選考に関する事項

2 教授会は、学長及び学部長（以下、「学長等」）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

- 3 第1項第5号及び教員の人事に関する審議は、学部長及び教授である会員の
みで行う。

(理事会との関連事項)

第52条 教授会の決議中、理事会所管事項に関連あるものについては、理事会の承認
を要する。

(その他の事項)

第53条 学部長は必要と認めたときは、事務職員その他の者を教授会に列席させるこ
とができる。この列席者は議決権を持たない。

第13章 賞罰

(表彰)

第54条 人物学業ともに優秀で他の学生の模範となる者に対して、学長は教授会の議
を経て、これを表彰することがある。

(罰則)

第55条 本学の規則もしくは命令に従わず、又は学生の本分に反する行為があった者
に対して、学長は教授会の議を経て、これを懲戒することがある。

2 前項の懲戒の種類は訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者

(2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められた者

(3) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反し、本学に在
学させることが適当でないと認められた者

第14章 図書館

(図書館)

第56条 本学に附属図書館を置く。図書館の規程は別に定める。

第 15 章 附属施設

(附属施設)

第 57 条 本学は一般的施設のほかにメディアセンターを置く。メディアセンターの規程は別に定める。

第 16 章 研究施設

(研究施設)

第 58 条 本学に英語教育開発センター、国際交流センター、教養教育センターを置く。英語教育開発センター、国際交流センター、教養教育センターの規程は別に定める。

第 17 章 課外及び自治活動の指導

(学生指導)

第 59 条 学生の課外活動及び自治活動の指導は別に定める規程による。

第 18 章 課外講座

(課外講座)

第 60 条 本学は、課外講座、公開講座又は講習会等を開催することがある。

第 19 章 保健及び厚生

(保健)

第 61 条 本学は学生に対し定期検診を行う。

2 保健室を設置し、校医を嘱託する。

(学生寮)

第 62 条 本学に学生寮を置く。学生寮に関する規則は別に定める。

第20章 学則の変更

(学則の変更)

第63条 本学則の変更は、本学教授会の議を経て理事会が行う。

附則1 この学則は平成4年4月1日から施行する。

附則2 この学則は平成5年4月1日から改定施行する。

- (2) この改定実施後の第35条の学納金(別表2)は平成4年度の入学生にはこれを適用せず、従前の規定を適用するものとする。

附則3 この学則は平成5年9月15日から改定施行する。

附則4 この学則は平成9年4月1日から改定施行する。

- (2) この改定実施後の第22条の規定は、原則として平成9年度の入学者から適用する。

- (3) この改定により廃止した授業科目は平成8年度以前の入学者には、原則として平成10年度からこれを適用することとし、平成9年度は従前の規定を適用する。

- (4) この改定により新設した授業科目は、平成8年度以前の入学者に遡って適用する。

- (5) この改定実施後の第23条の規定は、平成8年度以前の入学者に遡って適用する。但し、修得済の単位数についてはこの限りでない。

附則5 この学則は平成12年4月1日から改定施行する。

附則6 この学則は平成13年4月1日から改定施行する。

附則7 この学則は平成14年4月1日から改定施行する。

附則8 この学則は平成15年4月1日から改定施行する。

附則9 この学則は平成16年4月1日から改定施行する。

- (2) 人文学部英米言語学科、英米地域研究学科及びコミュニケーション学科は、改定実施後の第3条の規定にかかわらず、平成16年3月31日に当該学部の学科に在学する者が当該学部の学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

- (3) 第4条に規定する学生定員は、平成18年度までの間は次のとおりとする。

学部学科名	平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	入学定員	編入学定員(第3年次)	総定員	入学定員	編入学定員(第3年次)	総定員	入学定員	編入学定員(第3年次)	総定員
人文学部									
国際コミュニケーション学科	270	0	270	270	0	540	270	60	870
人間科学科	150	20	370	150	20	540	150	20	590
現代経営学部									
現代経営学科	215	35	600	215	35	850	215	35	890

学部学科名	平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	入学定員	編入学定員(第3年次)	総定員	入学定員	編入学定員(第3年次)	総定員	入学定員	編入学定員(第3年次)	総定員
人文学部									
英米言語学科	0	20	370	0	20	260	0	0	130
英米地域研究学科	0	20	370	0	20	260	0	0	130
コミュニケーション学科	0	20	340	0	20	240	0	0	120

(4) この学則は平成16年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお、従前の学則を適用するものとする。

附則10 この学則は平成17年4月1日から改定施行する。

(2) この学則は平成17年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお、従前の学則を適用するものとする。

附則11 この学則は平成18年4月1日から改定施行する。

(2) この学則は平成18年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお、従前の学則を適用するものとする。

附則12 この学則は平成18年11月1日から改定施行する。

(2) この学則は平成19年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお、従前の学則を適用するものとする。

附則13 この学則は、平成18年12月31日から改定施行する。

(2) この学則は平成19年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則14 この学則は、平成19年4月1日から改定施行する。

(2) この学則は平成19年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則15 この学則は、平成20年4月1日から改定施行する。

(2) この学則は平成20年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則16 この学則は、平成21年4月1日から改定施行する。

(2) この学則は平成21年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則17 この学則は、平成22年4月1日から改定施行する。

(2) この学則は平成22年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則18 この学則は、平成23年4月1日から改定施行する。

(2) この学則は平成23年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお

従前の学則を適用するものとする。

附則 19 この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は平成 24 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則 20 この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は平成 25 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則 21 この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は平成 26 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則 22 この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は平成 27 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。ただし、改正後の第 25 条、第 28 条、第 42 条、第 51 条、第 63 条については現に在学する学生にも適用する。

附則 23 この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は平成 28 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則 24 この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は平成 29 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則 25 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は平成 30 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。ただし、改正後の第 7 条、第 17 条第 2 項については現に在学する学生にも適用する。

附則 26 この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は平成 31 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則 27 この学則は、令和 2 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は令和 2 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則 28 この学則は、令和 2 年 7 月 1 日から改定施行し、令和 2 年 4 月 1 日から適用する。

(2) この学則は令和 2 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。ただし、改正後の第 23 条第 2 項第 26 条第 4 項

については現に在学する学生にも適用する。

附則 29 この学則は、令和 3 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は令和 3 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則 30 この学則は、令和 4 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は令和 4 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則 31 この学則は、令和 5 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は令和 5 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

別表1. 授業科目・単位数

a) 基本教育科目 (グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科)

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
グローバル・コミュニケーション学科	科演教 目習養	教養基礎演習A	1	1		教養演習科目は必修科目2単位を修得しなければならない。
		教養基礎演習B	1	1		
	表現伝達科目	基礎英語1A	1	1		表現伝達科目は、必修科目13単位及び英語表現科目の「応用英語Ⅱ」より2科目2単位を含め、合計20単位以上を修得しなければならない。
		基礎英語1B	1	1		
		基礎英語2A	1	1		
		基礎英語2B	1	1		
		基礎英語3A	1	1		
		基礎英語3B	1	1		
		基礎英語4A	1	1		
		基礎英語4B	1	1		
		応用英語ⅠA	1	1		
		応用英語ⅠB	1	1		
		応用英語Ⅱ-1A	1		1	
		応用英語Ⅱ-1B	1		1	
		応用英語Ⅱ-2A	1		1	
		応用英語Ⅱ-2B	1		1	
		応用英語Ⅱ-3A	1		1	
		応用英語Ⅱ-3B	1		1	
		応用英語Ⅲ-1A	1		1	
		応用英語Ⅲ-1B	1		1	
		応用英語Ⅲ-2A	1		1	
		応用英語Ⅲ-2B	1		1	
		応用英語Ⅲ-3A	1		1	
		応用英語Ⅲ-3B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-2B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-2B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-2B	1		1	
	初習外国語科目	フランス語A	1		1	日本語A、Bの履修は、留学生・帰国学生に限る。
		フランス語B	1		1	
		中国語A	1		1	
		中国語B	1		1	
		ハングルA	1		1	
		ハングルB	1		1	
		スペイン語A	1		1	
		スペイン語B	1		1	
		日本語A	1		1	
		日本語B	1		1	
		フランス語会話	1		1	
	実習科目	中国語会話	1		1	
		ハングル会話	1		1	
		スペイン語会話	1		1	
	情報処理科目	日本語表現法	1	1		
		日本語表現技法	1		1	
		情報処理基礎A	1	1		
		情報処理基礎B	1	1		
		情報処理応用A	1		1	
		情報処理応用B	1		1	
		情報処理法1(統計分析)	1		1	
		情報処理法2(プレゼンテーション)	1		1	
		情報処理法3(グラフィックデザイン)	1		1	
		情報処理法4(プログラミング)	1		1	

学科	区分		授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
グローバル・コミュニケーション学科	基本教育科目	人間理解	哲学	2		2	教養基礎科目は、区分に関らず20単位以上を修得しなければならない。
			心理学	2		2	
			宗教学	2		2	
			保健学	2		2	
			スポーツ1	1		1	
			スポーツ2	1		1	
			スポーツ3	2		2	
		文化・芸術理解	文学	2		2	
			音楽学	2		2	
			舞台芸術	2		2	
			映像文化	2		2	
			世界の美術	2		2	
			博物館学	2		2	
		社会理解	法学	2		2	
			政治と経済	2		2	
			社会学	2		2	
			社会思想	2		2	
			近現代日本史	2		2	
			情報学	2		2	
			日本国憲法	2		2	
		世界理解	文化人類学	2		2	
			近現代世界史	2		2	
			世界の文化と地域社会	2		2	
			海外文化演習Ⅰ	2		2	
			海外文化演習Ⅱ	2		2	
			国際体験演習Ⅰ	2		2	
			国際体験演習Ⅱ	2		2	
			地理学	2		2	
			国際関係学	2		2	
		現代の探求	安全保障論	2		2	
			日本社会の抱える諸問題	2		2	
			国際社会の抱える諸問題	2		2	
			現代社会とデータサイエンス	2		2	
			生活と環境	2		2	
			科学技術と人間	2		2	
			先端科学の世界	2		2	
	現代社会とジェンダー		2		2		
生命と倫理	2			2			
キャリア教育科目	スタートアップ・インターンシップ		1		1		
	セルフディベロップメント認定Ⅰ	1		1			
	セルフディベロップメント認定Ⅱ	2		2			
	キャリアデザイン入門	2	2				
	インターンシップ演習Ⅰ	1		1			
	キャリアデザイン	2	2				
	インターンシップ演習Ⅱ	1		1			
	業界研究	2		2			
就職実践演習	2		2				
計				148	19	129	

b) 専門教育科目（グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科）

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
グローバル・コミュニケーション学科	専門基礎科目	グローバル・コミュニケーション入門	2		2	専門教育科目は、以下の要件を満たして合計78単位以上を修得しなければならない。 なお、基本教育科目の各科目区分の要件を満たしたうえ46単位を超えて修得した単位については、8単位を上限として専門教育科目の単位とみなすことができる。
		国際関係入門	2		2	
		グローバル協力入門	2		2	
		グローバル交流入門	2		2	
		Understanding the World	2		2	
		グローバル・コミュニケーション言語Ⅰ（フランス語）	2		2	
		グローバル・コミュニケーション言語Ⅰ（中国語）	2		2	
		グローバル・コミュニケーション言語Ⅰ（ハングル）	2		2	
		グローバル・コミュニケーション言語Ⅰ（スペイン語）	2		2	
		リサーチデザイン	2		2	
		グローバル・コミュニケーション言語Ⅱ（フランス語）	2		2	
		グローバル・コミュニケーション言語Ⅱ（中国語）	2		2	
		グローバル・コミュニケーション言語Ⅱ（ハングル）	2		2	
		グローバル・コミュニケーション言語Ⅱ（スペイン語）	2		2	
	専門教育科目	グローバルネットワーク論	2		2	①専門基礎科目は、「グローバル・コミュニケーション言語Ⅰ」または「リサーチデザイン」を含め、合計10単位以上を修得しなければならない。 ②専門ゼミ科目は、5科目16単位を修得しなければならない。 ③英語コミュニケーション学科、人間科学部、現代経営学部の専門教育科目を履修した場合、合わせて24単位までをグローバル・コミュニケーション学科の専門教育科目の単位とみなすことができる。
		グローバル・ガバナンスⅠ	2		2	
		イノベーション研究Ⅰ	2		2	
		国際関係史	2		2	
		平和研究	2		2	
		グローバル協力論	2		2	
		国際人権論	2		2	
		開発経済論	2		2	
		国際機構論	2		2	
		外交政策論	2		2	
		比較文化論	2		2	
		国際金融論	2		2	
		国際環境論	2		2	
		観光論	2		2	
		マスメディア論	2		2	
		異文化間コミュニケーション	2		2	
		アメリカの社会と文化	2		2	
		ヨーロッパの社会と文化	2		2	
		中国・韓国の社会と文化	2		2	
		アジア・アフリカの社会と文化	2		2	
		Issues in Globalization	2		2	
		グローバル・ガバナンスⅡ	2		2	
		イノベーション研究Ⅱ	2		2	
		国際政治学	2		2	
		国際経済学	2		2	
		国際社会と法	2		2	
		グローバル経済と国際社会	2		2	
		人間の安全保障	2		2	
		平和構築	2		2	
		国際開発と援助	2		2	
		多文化社会論	2		2	
		アメリカ地域研究	2		2	
		ヨーロッパ地域研究	2		2	
		中国・韓国地域研究	2		2	
		アジア・アフリカ地域研究	2		2	
		情報と社会	2		2	
		都市観光論	2		2	
		異文化交流とコミュニケーション	2		2	
		Topics in Globalization1	2		2	
		Topics in Globalization2	2		2	

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
グローバル・コミュニケーション学	専門教育科目	比較宗教論	2		2	
		グローバル市民社会論	2		2	
		ビッグデータと現代社会	2		2	
		グローバル企業と産業	2		2	
		資源と環境	2		2	
		世界の地誌と観光	2		2	
		グローバル・キャリアI	2		2	
		グローバルPBL1	2		2	
		日本語教育法入門	2		2	
		日本文学	2		2	
		日英語比較論	2		2	
		グローバル・ヒストリー	2		2	
		メディア・コンテンツ論	2		2	
		ポピュラーカルチャー論	2		2	
		ジャーナリズムとメディア	2		2	
		環境問題と国際関係	2		2	
		企業活動と環境	2		2	
		国際ボランティア論	2		2	
		国際観光政策	2		2	
		ホスピタリティ・ツーリズム	2		2	
		スポーツと国際社会	2		2	
		現代英米文化研究	2		2	
		世界の英語	2		2	
		航空ビジネスの英語	2		2	
		観光英語1	2		2	
		観光英語2	2		2	
		グローバル・キャリアII	2		2	
		グローバルPBL2	2		2	
		社会調査・フィールドスタディ演習	2		2	
		English for Returnees1	2		2	
	日本語研究1	2		2		
	日本語研究2	2		2		
	日本語教育法1	2		2		
	日本語教育法2	2		2		
	日本語教育実習	1		1		
	English for Returnees2	2		2		
English for Returnees3	2		2			
English for Returnees4	2		2			
日本語教育実践演習	2		2			
専門ゼミ	専門基礎演習A	2	2			
	専門基礎演習B	2	2			
	専門応用演習	4	4			
	卒業研究演習	4	4			
	卒業論文・卒業制作	4	4			
計			201	16	185	
合計			349	35	314	

c) 基本教育科目 (グローバル・コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科)

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
英語 コミュニケーション 学科	科演教 目習養	教養基礎演習A	1	1		教養演習科目は必修科目2単位を修得しなければならない。
		教養基礎演習B	1	1		
	英語 表現 科目	基礎英語1A	1	1		表現伝達科目は、必修科目13単位及び英語表現科目の「応用英語Ⅱ」より2科目2単位を含め、合計20単位以上を修得しなければならない。
		基礎英語1B	1	1		
		基礎英語2A	1	1		
		基礎英語2B	1	1		
		基礎英語3A	1	1		
		基礎英語3B	1	1		
		基礎英語4A	1	1		
		基礎英語4B	1	1		
		応用英語ⅠA	1	1		
		応用英語ⅠB	1	1		
		応用英語Ⅱ-1A	1		1	
		応用英語Ⅱ-1B	1		1	
		応用英語Ⅱ-2A	1		1	
		応用英語Ⅱ-2B	1		1	
		応用英語Ⅱ-3A	1		1	
		応用英語Ⅱ-3B	1		1	
		応用英語Ⅲ-1A	1		1	
		応用英語Ⅲ-1B	1		1	
		応用英語Ⅲ-2A	1		1	
		応用英語Ⅲ-2B	1		1	
		応用英語Ⅲ-3A	1		1	
		応用英語Ⅲ-3B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-2B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-2B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-2B	1		1	
	初習外国語科目	フランス語A	1		1	日本語A、Bの履修は、留学生・帰国学生に限る。
		フランス語B	1		1	
		中国語A	1		1	
		中国語B	1		1	
		ハングルA	1		1	
		ハングルB	1		1	
		スペイン語A	1		1	
		スペイン語B	1		1	
		日本語A	1		1	
		日本語B	1		1	
		フランス語会話	1		1	
		中国語会話	1		1	
		ハングル会話	1		1	
		スペイン語会話	1		1	
	英日 対訳本 科目	日本語表現法	1	1		
		日本語表現技法	1		1	
	情報 処 理 科 目	情報処理基礎A	1	1		
		情報処理基礎B	1	1		
		情報処理応用A	1		1	
		情報処理応用B	1		1	
		情報処理法1(統計分析)	1		1	
		情報処理法2(プレゼンテーション)	1		1	
		情報処理法3(グラフィックデザイン)	1		1	
		情報処理法4(プログラミング)	1		1	

学科		区分		授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
英語 コミュニケーション 学科	基本 教育 科目	人間 理解	哲学	2		2	教養基礎科目は、区分に関らず20単位以上を修得しなければならない。	
			心理学	2		2		
			宗教学	2		2		
			保健学	2		2		
			スポーツ1	1		1		
			スポーツ2	1		1		
			スポーツ3	2		2		
		文化・芸術 理解	文学	2		2		
			音楽学	2		2		
			舞台芸術	2		2		
			映像文化	2		2		
			世界の美術	2		2		
			博物館学	2		2		
			英語文学1	2		2		
			英語文学2	2		2		
		社会 理解	法学	2		2		
			政治と経済	2		2		
			社会学	2		2		
			社会思想	2		2		
			近現代日本史	2		2		
			情報学	2		2		
			日本国憲法	2		2		
		世界 理解	文化人類学	2		2		
			近現代世界史	2		2		
			世界の文化と地域社会	2		2		
			海外文化演習Ⅰ	2		2		
			海外文化演習Ⅱ	2		2		
			国際体験演習Ⅰ	2		2		
			国際体験演習Ⅱ	2		2		
			地理学	2		2		
			国際関係学	2		2		
			安全保障論	2		2		
		現代の 探求	日本社会の抱える諸問題	2		2		
			国際社会の抱える諸問題	2		2		
			現代社会とデータサイエンス	2		2		
			生活と環境	2		2		
科学技術と人間	2			2				
先端科学の世界	2			2				
現代社会とジェンダー	2			2				
生命と倫理	2			2				
キャリア 教育 科目	スタートアップ・インターンシップ	1		1	キャリア教育科目は、必修科目2科目4単位を含め、合計4単位以上を修得しなければならない。なお、選択科目より修得した単位は、教養基礎科目の単位とみなすことができる。			
	セルフディベロップメント認定Ⅰ	1		1				
	セルフディベロップメント認定Ⅱ	2		2				
	キャリアデザイン入門	2	2					
	インターンシップ演習Ⅰ	1		1				
	キャリアデザイン	2	2					
	インターンシップ演習Ⅱ	1		1				
	業界研究	2		2				
	就職実践演習	2		2				
計				152	19	133		

d) 専門教育科目（グローバル・コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科）

学科	区分		授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件	
英語コミュニケーション学科	専門基礎科目	A群	グローバル・コミュニケーション入門	2		2	専門教育科目は、以下の要件を満たしたうえ合計78単位以上を修得しなければならない。なお、基本教育科目の各科目区分の要件を満たしたうえ46単位を超えて修得した単位、専門基礎科目の各科目区分の要件を満たしたうえ20単位を超えて修得した単位、他学部他学科専門教育科目で修得した単位については、12単位を上限として専門展開科目の単位とみなすことができる。但し、下記③に定められた専門展開科目の卒業要件に含めることはできない。	
			英語学入門	2		2		
			英米文学入門	2		2		
			英語文化研究入門	2		2		
			Understanding the World	2		2		
			教育原理	2		2		
			教職概論	2		2		
			教育心理学	2		2		
		B群	総合英語演習 1A	2	2			
			総合英語演習 1B	2	2			
		専門基礎科目	A群	英語音声学	2			2
				現代の英文法	2			2
				日英語比較論	2			2
				異文化間コミュニケーション	2			2
				文学作品を読む 1	2			2
				文学作品を読む 2	2			2
				アメリカの社会と文化	2			2
				Issues in Globalization	2			2
	グローバル PBL 1			2		2		
	児童英語教育入門			2		2		
	英語教授文法			2		2		
	英語科教育法 1			2		2		
	英語科教育法 2			2		2		
	教育制度比較論			2		2		
	特別支援教育			2		2		
	教育課程論			2		2		
	日本語教育法入門			2		2		
	B群			総合英語演習 2A	2	2		
			総合英語演習 2B	2	2			
			Progressive English 1	2	2			
			Progressive English 2	2	2			
			翻訳入門	2		2		
			Listening for Conversation 1	2		2		
			Conversation Skills 1	2		2		
			Oral Communication 1: Presentation & Debate	2		2		
	Writing 1		2		2			
	専門展開科目	A群	英語と対人コミュニケーション	2		2		
			英語コミュニケーションと社会	2		2		
			英語の文構造	2		2		
			英語の意味と理解	2		2		
			英語の習得と学習	2		2		
			文学作品を読む 3	2		2		
			文学作品を読む 4	2		2		
			英語児童文学	2		2		
			現代英米文化研究	2		2		
			アメリカ地域研究	2		2		
			Topics in Globalization 1	2		2		
			Topics in Globalization 2	2		2		
			グローバル PBL 2	2		2		
			児童英語教育指導法	2		2		
			児童英語教育実習	1		1		
			異文化交流とコミュニケーション	2		2		
			世界の英語	2		2		
			英語科教育法 3	2		2		
			英語科教育法 4	2		2		
			教育史	2		2		
			日本語研究1	2		2		
			日本語研究2	2		2		
			日本語教育法 1	2		2		
			日本語教育法 2	2		2		
			日本語教育実習	1		1		
			日本語教育実践演習	2		2		
		B群	総合英語演習 3A	2		2		
			総合英語演習 3B	2		2		
			Progressive English 3	2		2		
			Progressive English 4	2		2		
			Listening for Conversation 2	2		2		
リスニングで学ぶ社会と文化			2		2			
Conversation Skills 2			2		2			
Oral Communication 2: Discussion & Debate			2		2			
Writing 2			2		2			
観光英語 1			2		2			
観光英語 2			2		2			
総合英語演習 4A			2		2			
総合英語演習 4B			2		2			
科ゼ専門ミ門	専門応用演習	4	4					
	卒業研究演習	4	4					
	卒業論文・卒業制作	4	4					
	計	160	24	136				
合計				312	43	269		

e) 基本教育科目（人間科学部 人間科学科）

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
人間科学科	基本教育科目	教養基礎演習A	1	1		基本教育科目は、以下の要件を満たしたうえで合計46単位以上を修得しなければならない。 なお、専門教育科目の各科目区分の要件を満たしたうえで78単位を超えて修得した単位については、4単位を上限として教養基礎科目の単位とみなすことができる。 ①教養演習科目は必修科目2単位を修得しなければならない。 ②表現伝達科目は、必修科目13単位及び英語表現科目の「応用英語Ⅱ」より2科目2単位を含め、合計18単位以上を修得しなければならない。 ③教養基礎科目は、区分に関らず22単位以上を修得しなければならない。 ④キャリア教育科目は、必修科目2科目4単位を含め、合計4単位以上を修得しなければならない。なお、選択科目より修得した単位は、教養基礎科目の単位とみなすことができる。 日本語A、Bの履修は、留学生・帰国学生に限る。
		教養基礎演習B	1	1		
	表現伝達科目	基礎英語1A	1	1		
		基礎英語1B	1	1		
		基礎英語2A	1	1		
		基礎英語2B	1	1		
		基礎英語3A	1	1		
		基礎英語3B	1	1		
		基礎英語4A	1	1		
		基礎英語4B	1	1		
		応用英語ⅠA	1	1		
		応用英語ⅠB	1	1		
		応用英語Ⅱ-1A	1		1	
		応用英語Ⅱ-1B	1		1	
		応用英語Ⅱ-2A	1		1	
		応用英語Ⅱ-2B	1		1	
		応用英語Ⅱ-3A	1		1	
		応用英語Ⅱ-3B	1		1	
		応用英語Ⅲ-1A	1		1	
		応用英語Ⅲ-1B	1		1	
		応用英語Ⅲ-2A	1		1	
		応用英語Ⅲ-2B	1		1	
		応用英語Ⅲ-3A	1		1	
		応用英語Ⅲ-3B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-2B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-2B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-2B	1		1	
	初習外国語科目	フランス語A	1		1	
		フランス語B	1		1	
		中国語A	1		1	
		中国語B	1		1	
		ハングルA	1		1	
		ハングルB	1		1	
		スペイン語A	1		1	
		スペイン語B	1		1	
		日本語A	1		1	
		日本語B	1		1	
		フランス語会話	1		1	
		中国語会話	1		1	
		ハングル会話	1		1	
		スペイン語会話	1		1	
	英・日・中国語	日本語表現法	1	1		
		日本語表現技法	1		1	
	情報処理科目	情報処理基礎A	1	1		
		情報処理基礎B	1	1		
		情報処理応用A	1		1	
		情報処理応用B	1		1	
		情報処理法1(統計分析)	1		1	
		情報処理法2(プレゼンテーション)	1		1	
		情報処理法3(グラフィックデザイン)	1		1	
		情報処理法4(プログラミング)	1		1	

学科	区分		授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
人間科学科	基本教育科目	人間理解	哲学	2		2	
			心理学	2		2	
			宗教学	2		2	
			保健学	2		2	
			スポーツ1	1		1	
			スポーツ2	1		1	
			スポーツ3	2		2	
		文化・芸術理解	文学	2		2	
			音楽学	2		2	
			舞台芸術	2		2	
			映像文化	2		2	
			世界の美術	2		2	
			博物館学	2		2	
			教養基礎	法学	2		
		政治と経済		2		2	
		社会学		2		2	
		社会思想		2		2	
		近現代日本史		2		2	
		情報学		2		2	
		日本国憲法		2		2	
		世界理解	文化人類学	2		2	
			近現代世界史	2		2	
			世界の文化と地域社会	2		2	
			海外文化演習Ⅰ	2		2	
			海外文化演習Ⅱ	2		2	
			国際体験演習Ⅰ	2		2	
			国際体験演習Ⅱ	2		2	
			地理学	2		2	
			国際関係学	2		2	
			安全保障論	2		2	
		現代の探求	日本社会の抱える諸問題	2		2	
			国際社会の抱える諸問題	2		2	
			現代社会とデータサイエンス	2		2	
			生活と環境	2		2	
			科学技術と人間	2		2	
			先端科学の世界	2		2	
			現代社会とジェンダー	2		2	
			生命と倫理	2		2	
		キャリア教育科目	スタートアップ・インターンシップ	1		1	
			セルフディベロップメント認定Ⅰ	1		1	
			セルフディベロップメント認定Ⅱ	2		2	
			キャリアデザイン入門	2	2		
			インターンシップ演習Ⅰ	1		1	
			キャリアデザイン	2	2		
			インターンシップ演習Ⅱ	1		1	
			業界研究	2		2	
			就職実践演習	2		2	
計				148	19	129	

f) 専門教育科目（人間科学部 人間科学科）

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
人間科学科	専門基礎科目	心理学概論	2		2	専門教育科目は、以下の要件を満たしたうえで合計78単位以上を修得しなければならない。 なお、基本教育科目の各科目区分の要件を満たしたうえで46単位を超えて修得した単位については、4単位を上限として、他学部専門教育科目で修得した単位については、12単位を上限として専門教育科目の単位とみなすことができる。 ①専門基礎科目は、必修科目「人間科学基礎演習A」「人間科学基礎演習B」を含め、12単位以上を修得しなければならない。
		基礎心理学	2		2	
		対人関係論	2		2	
		スポーツ健康概論	2		2	
		スポーツ文化	2		2	
		人間学	2		2	
		東京学	2		2	
		犯罪学入門	2		2	
		現代社会論	2		2	
		人間科学基礎演習A	2	2		
		人間科学基礎演習B	2	2		
		心理学研究法	2		2	
		心理演習	2		2	
		心理学実験	2		2	
		臨床心理学概論	2		2	
		心理学統計法	2		2	
		健康管理学	2		2	
		スポーツ生理学	2		2	
		社会問題入門	2		2	
		地域コミュニティ論入門	2		2	
	専門教育科目	知覚・認知心理学	2		2	②3・4年次において専門ゼミ科目3科目12単位を修得しなければならない。
		感情・人格心理学	2		2	
		発達心理学	2		2	
		心理学的支援法	2		2	
		子ども学	2		2	
		保育の心理学	2		2	
		子ども家庭福祉	2		2	
		社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学）	2		2	
		家族心理学（社会・集団・家族心理学）	2		2	
		スポーツ心理学	2		2	
		スポーツバイオメカニクス	2		2	
		トレーニング科学	2		2	
		スポーツ医学	2		2	
		リサーチ入門	2		2	
		きずなとつながりの社会学	2		2	
		家族社会学	2		2	
		地域文化論	2		2	
		地域共生社会論	2		2	
		東京の観光	2		2	
		地域ではたらく	2		2	
		学習・言語心理学	2		2	
		神経・生理心理学	2		2	
		産業・組織心理学	2		2	
		心理検査演習	2		2	
		福祉心理学	2		2	
		障害者・障害児心理学	2		2	
		教育・学校心理学	2		2	
		運動・スポーツ指導論	2		2	
		栄養学	2		2	
		スポーツカウンセリング	2		2	
		スポーツマネジメント	2		2	
		スポーツマーケティング	2		2	
		ボランティア論	2		2	
		人体の構造と機能及び疾病	2		2	
		人間社会演習	2		2	
		コミュニティ・リーダーシップ論	2		2	
		社会と行政	2		2	
		社会問題と人間科学	2		2	
		犯罪対策論	2		2	
		社会福祉学	2		2	
		関係行政論	2		2	

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
人間 科学 科	専門 教育 科目	健康・医療心理学	2		2	
		臨床心理学研究1(基礎)	2		2	
		臨床心理学研究2(応用)	2		2	
		子どもの保健	2		2	
		保育の表現技術	2		2	
		ピアカウンセリング	2		2	
		コーチング論	2		2	
		体力トレーニング実習	1		1	
		テニスの指導理論	2		2	
		社会と地方自治	2		2	
		地域課題解決論	2		2	
		まちづくり論	2		2	
		環境問題入門	2		2	
		東京のサブカルチャー	2		2	
		人間科学総合講座	2		2	
		精神疾患とその治療	2		2	
		公認心理師の職責	2		2	
		心理的アセスメント	2		2	
		司法・犯罪心理学	2		2	
		保育体験	2		2	
		日本文化と心的世界	2		2	
		運動・スポーツ指導の実践	2		2	
		レクリエーションの理論と実践	2		2	
		エアロビックダンス	1		1	
		水泳	1		1	
		ウォーキング・ジョギング	1		1	
		社会体育理論と実践	2		2	
		被害者学	2		2	
		NPO論	2		2	
		地域環境論	2		2	
		世界の地域文化	2		2	
		世界の中の東京	2		2	
		心理実習	2		2	
	科ゼ専門 目ミ門	専門応用演習	4	4		
		卒業研究演習	4	4		
		卒業論文	4	4		
計			196	16	180	
合計			344	35	309	

g) 基本教育科目（現代経営学部 現代経営学科）

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
現代経営学科	教養演習科目	教養基礎演習A	1	1		教養演習科目は必修科目2単位を修得しなければならない。
		教養基礎演習B	1	1		
	英語表現科目	基礎英語1A	1	1		表現伝達科目は、必修科目13単位及び英語表現科目の「応用英語Ⅱ」より2科目2単位を含め、合計18単位以上を修得しなければならない。
		基礎英語1B	1	1		
		基礎英語2A	1	1		
		基礎英語2B	1	1		
		基礎英語3A	1	1		
		基礎英語3B	1	1		
		基礎英語4A	1	1		
		基礎英語4B	1	1		
		応用英語ⅠA	1	1		
		応用英語ⅠB	1	1		
		応用英語Ⅱ-1A	1		1	
		応用英語Ⅱ-1B	1		1	
		応用英語Ⅱ-2A	1		1	
		応用英語Ⅱ-2B	1		1	
		応用英語Ⅱ-3A	1		1	
		応用英語Ⅱ-3B	1		1	
		応用英語Ⅲ-1A	1		1	
		応用英語Ⅲ-1B	1		1	
		応用英語Ⅲ-2A	1		1	
		応用英語Ⅲ-2B	1		1	
		応用英語Ⅲ-3A	1		1	
		応用英語Ⅲ-3B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅰ-2B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅱ-2B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-1A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-1B	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-2A	1		1	
		ALPS(英語特別選抜クラス)Ⅲ-2B	1		1	
	初習外国語科目	フランス語A	1		1	日本語A、Bの履修は、留学生・帰国学生に限る。
		フランス語B	1		1	
		中国語A	1		1	
		中国語B	1		1	
		ハングルA	1		1	
		ハングルB	1		1	
		スペイン語A	1		1	
		スペイン語B	1		1	
		日本語A	1		1	
		日本語B	1		1	
		フランス語会話	1		1	
		中国語会話	1		1	
	英日・日英本邦語	ハングル会話	1		1	
		スペイン語会話	1		1	
	情報処理科目	日本語表現法	1	1		
		日本語表現技法	1		1	
		情報処理基礎A	1	1		
		情報処理基礎B	1	1		
		情報処理応用A	1		1	
		情報処理応用B	1		1	
		情報処理法1(統計分析)	1		1	
		情報処理法2(プレゼンテーション)	1		1	
		情報処理法3(グラフィックデザイン)	1		1	
		情報処理法4(プログラミング)	1		1	

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
現代経営学科	基本教育科目	人間理解	哲学	2	2	教養基礎科目は、区分に関らず22単位以上を修得しなければならない。
			心理学	2	2	
			宗教学	2	2	
			保健学	2	2	
			スポーツ1	1	1	
			スポーツ2	1	1	
			スポーツ3	2	2	
		文化・芸術理解	文学	2	2	
			音楽学	2	2	
			舞台芸術	2	2	
			映像文化	2	2	
			世界の美術	2	2	
			博物館学	2	2	
		社会理解	法学	2	2	
			政治と経済	2	2	
			社会学	2	2	
			社会思想	2	2	
			近現代日本史	2	2	
			情報学	2	2	
		世界理解	日本国憲法	2	2	
			文化人類学	2	2	
			近現代世界史	2	2	
			世界の文化と地域社会	2	2	
			海外文化演習Ⅰ	2	2	
			海外文化演習Ⅱ	2	2	
			国際体験演習Ⅰ	2	2	
			国際体験演習Ⅱ	2	2	
			地理学	2	2	
			国際関係学	2	2	
			安全保障論	2	2	
		現代の探求	日本社会の抱える諸問題	2	2	キャリア教育科目は、必修科目2科目4単位を含め、合計4単位以上を修得しなければならない。なお、選択科目より修得した単位は、教養基礎科目の単位とみなすことができる。
			国際社会の抱える諸問題	2	2	
			現代社会とデータサイエンス	2	2	
			生活と環境	2	2	
			科学技術と人間	2	2	
			先端科学の世界	2	2	
			現代社会とジェンダー	2	2	
			生命と倫理	2	2	
		キャリア教育科目	スタートアップ・インターンシップ	1	1	
			セルフディベロップメント認定Ⅰ	1	1	
			セルフディベロップメント認定Ⅱ	2	2	
			キャリアデザイン入門	2	2	
			インターンシップ演習Ⅰ	1	1	
			キャリアデザイン	2	2	
			インターンシップ演習Ⅱ	1	1	
			業界研究	2	2	
			就職実践演習	2	2	
		計		148	19	129

h) 専門教育科目（現代経営学部 現代経営学科）

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
現代経営学科	基礎	経営入門	2	2		専門教育科目は、以下の要件を満たしたうえで合計78単位以上を修得しなければならない。
		マーケティング入門	2	2		
		経済入門	2	2		
	専門基幹科目	簿記入門	2		2	なお、基本教育科目の各科目区分の要件を満たしたうえで46単位を超えて修得した単位、専門基幹科目の要件を満たしたうえで22単位を超えて修得した単位および他学部専門科目で修得した単位については、12単位を上限として専門展開科目の単位とみなすことができる。但し、12単位に含めることができるのは、基本教育科目及び専門基幹科目については合わせて8単位を上限とする。
		会計入門	2		2	
		流通入門	2		2	
		経済の見方	2		2	
		法律入門	2		2	
		統計入門	2		2	
		政治学入門	2		2	
		人間関係論	2		2	
		経営管理	2		2	
		経営戦略	2		2	
		マーケティング戦略	2		2	
		マーケティング・リサーチ	2		2	
		ミクロ経済	2		2	
		マクロ経済	2		2	
		人的資源基礎	2		2	
		会計情報	2		2	
		サービス経営基礎	2		2	
		ファイナンス基礎	2		2	
		簿記	2		2	
		統計	2		2	
		民法	2		2	
		企画・プレゼンテーション技法	2		2	
		販売サービスⅠ	2		2	
		販売サービスⅡ	2		2	
		情報処理検定Ⅰ	2		2	
		情報処理検定Ⅱ	2		2	
		ビジネス能力検定	2		2	
	専門展開科目	トップマネジメント特別講義	2		2	①専門基幹科目は、3科目6単位を修得しなければならない。 ②専門基幹科目は、「経営管理」「経営戦略」「マーケティング戦略」「マーケティング・リサーチ」「ミクロ経済」「マクロ経済」から、2科目4単位を含め合計22単位以上を修得しなければならない。 ③専門展開科目は、所属専攻別に指定された科目群より、必修3科目6単位、選択科目3科目6単位以上を含め、所属専攻以外の専攻別科目群(必修及び選択)並びに専攻共通科目群からの単位修得と合わせ、合計38単位以上を修得しなければならない。 ④専門演習科目は、6科目12単位を修得しなければならない。
		組織行動	2		2	
		企業倫理と社会正義	2		2	
		現代企業ケース研究	2		2	
		国際経営	2		2	
		グローバル人材開発	2		2	
		人的資源管理	2		2	
		ビジネス交渉	2		2	
		新事業開発	2		2	
		起業ショップ経営	2		2	
		事業継承概論	2		2	
		老舗企業ケース研究	2		2	
		プロジェクトマネジメント	2		2	
		中小企業論	2		2	
		財務会計	2		2	
		管理会計	2		2	
		情報管理	2		2	
		オペレーションズリサーチ	2		2	
		コーポレートファイナンス	2		2	
		商品開発ケース研究	2		2	
		広告論	2		2	
		デザインマネジメント	2		2	
		サービスビジネス特別講義	2		2	
		サービスマーケティング	2		2	
		インターネットマーケティング	2		2	
		消費者行動	2		2	
		流通ビジネス経営	2		2	
		店舗経営	2		2	
		フードサービス経営	2		2	
		コンテンツビジネス	2		2	
		スポーツビジネスケース研究	2		2	
		イベントプロデュースケース研究	2		2	
		ウェブコミュニケーション	2		2	
		ビジネス経済	2		2	
		産業組織論	2		2	
		労働経済	2		2	
		ファイナンシャル経済	2		2	
		日本経済	2		2	

学科	区分	授業科目	単位数	必修	選択	卒業要件
現代経営学科	専門教育科目	国際経済	2		2	
		経済政策	2		2	
		財政学	2		2	
		金融論	2		2	
		金融ビジネス	2		2	
		証券投資	2		2	
		証券市場	2		2	
		資産運用Ⅰ	2		2	
		資産運用Ⅱ	2		2	
		ビジネス法	2		2	
		リスクマネジメント	2		2	
		リーダーシップ論	2		2	
		戦略思想概論	2		2	
		ビジネス・リーディング	2		2	
		海外ビジネス研究	2		2	
		ビジネス英語Ⅰ	2		2	
		ビジネス英語Ⅱ	2		2	
		現代経営特別講義1	2		2	
		現代経営特別講義2	2		2	
		現代経営特別講義3	2		2	
		卒業論文	4		4	
	専門演習科目	ビジネス基礎演習Ⅰ	1	1		
		ビジネス基礎演習Ⅱ	1	1		
		専門基礎演習Ⅰ	1	1		
		専門基礎演習Ⅱ	1	1		
		専門応用演習	4	4		
		卒業研究演習	4	4		
		計	192	18	174	
		合計	340	37	303	

i) 学則第32条関係 (グローバル・コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科)

区分	授業科目	単位数	必修	選択	
	道徳教育指導法	2		2	
	教育方法論(情報通信技術の活用を含む)	2		2	
	学校体験活動	1		1	
	総合的な学習の時間の指導法	2		2	
	特別活動指導法	2		2	
	生徒指導・進路指導	2		2	
	教育相談	2		2	
	介護等体験演習	2		2	
	事前・事後指導	1		1	
	中学校教育実習	4		4	
	高等学校教育実習	2		2	
	教職実践演習 (中・高)	2		2	
	計	24	0	24	

別表 2. 検定料、入学金、授業料、その他

イ、検定料	30,000円
ロ、入学金	300,000円
ハ、授業料	900,000円
ニ、維持費	100,000円
ホ、施設設備費	100,000円

学校法人東洋学園の設置する学校を卒業した者、又はその課程を修了した者の学納金は別に定める。
所定の修業年限を超えて在学する者の学納金は別に定める。

この別表に規定するもののほか、検定料、入学金、授業料その他の納付金の取扱いに関し、必要な事項は、別に定める。

学則変更事項を記載した書類

[変更の事由]

1. 現代経営学部現代経営学科、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科およびグローバル・コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の入学定員を変更することに伴い、関係条文を変更する。
2. 当該学則が改訂施行される年月日を明記するとともに、適用範囲を明確にする必要があるため、附則を追加する。

[変更点]

1. 第4条（学生定員）中、現代経営学部現代経営学科の入学定員を215名から245名にし、総定員を930名から1,050名に変更する。また、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科の入学定員を120名から110名にし、総定員を500名から460名に変更する。英語コミュニケーション学科の入学定員を120名から100名にし、総定員を500名から420名に変更する。
2. 附則31を追加する。

東洋学園大学学則新旧対照表

新				旧			
(学生定員) 第4条 本学学部及び学科の学生定員は次のとおりとする。				(学生定員) 第4条 本学学部及び学科の学生定員は次のとおりとする。			
学部学科名	入学定員	編入学定員	総定員	学部学科名	入学定員	編入学定員	総定員
グローバル・コミュニケーション学部				グローバル・コミュニケーション学部			
グローバル・コミュニケーション学科	<u>110名</u>	10名	<u>460名</u>	グローバル・コミュニケーション学科	<u>120名</u>	10名	<u>500名</u>
英語コミュニケーション学科	<u>100名</u>	10名	<u>420名</u>	英語コミュニケーション学科	<u>120名</u>	10名	<u>500名</u>
人間科学部				人間科学部			
人間科学科	200名	20名	840名	人間科学科	200名	20名	840名
現代経営学部				現代経営学部			
現代経営学科	<u>245名</u>	35名	<u>1,050名</u>	現代経営学科	<u>215名</u>	35名	<u>930名</u>
合計	655名	75名	2,770名	合計	655名	75名	2,770名
<u>附則31 この学則は、令和5年4月1日から改定施行する。</u>							
<u>(2) この学則は令和5年度の入学者から適用し、現に在学する学生</u> <u>には、なお従前の学則を適用するものとする。</u>							

学則の変更の趣旨等を記載した書類 目次

ア．学則変更（収容定員変更）の内容	p.2
イ．学則変更（収容定員変更）の必要性	p.2
ウ．学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	
（ア）教育課程の変更内容	p.4
（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容	p.5
（ウ）教員組織の変更内容	p.6
（エ）大学全体の施設・設備の変更内容	p.6

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

東洋学園大学の入学定員及び収容定員を、令和5年度より下記（表1）の通り変更することとする。

現代経営学部現代経営学科の入学定員を215名から245名にし、収容定員を930名から1,050名に変更する。また、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科及びグローバル・コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の入学定員をそれぞれ120名から110名に、120名を100名にし、収容定員をそれぞれ500名から460名に、500名から420名とする。なお、本件は大学の収容定員の総数の増加を伴わない変更である。

（表1）入学定員及び収容定員の変更内容

学部	学科	変 更 前（令和4年度）			変 更 後（令和5年度）		
		入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
現代経営学部	現代経営学科	<u>215名</u>	35名	<u>930名</u>	<u>245名</u>	35名	<u>1,050名</u>
グローバル・コミュニケーション学部	グローバル・コミュニケーション学科	<u>120名</u>	10名	<u>500名</u>	<u>110名</u>	10名	<u>460名</u>
	英語コミュニケーション学科	<u>120名</u>	10名	<u>500名</u>	<u>100名</u>	10名	<u>420名</u>
人間科学部	人間科学科	200名	20名	840名	200名	20名	840名
合計		655名	75名	2,770名	655名	75名	2,770名

※変更する定員に下線

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

公益財団法人大学基準協会による「2017（平成29）年度認証評価」において、グローバル・コミュニケーション学部およびグローバル・コミュニケーション学科の過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均及び収容定員に対する在籍学生数比率に対して改善勧告がなされている。これについては、英語コミュニケーション学科を含む当該学部の学びの魅力を、様々な方策を用いて受験生にアピールし、学生確保に努めてきた結果、改善傾向として表出している。

改善勧告当時、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均及び収容定員に対する在籍学生数比率は、グローバル・コミュニケーション学部ではそれぞれ0.86、0.83、グロー

バル・コミュニケーション学科では 0.63、0.59 であったが、令和 4 年度を起点とした過去 5 年間の入学者数比率の平均及び過去 5 年間の在籍学生数比率は、(表 2) (表 3) に見て取れるように、グローバル・コミュニケーション学部では 0.93、0.92、グローバル・コミュニケーション学科では 0.96、0.87 と改善している。引き続き学生確保に努めていくが、語学・国際系分野における受験生のニーズは、学問分野の特徴でもある国際交流や留学の中止・延期の影響が如実に表れ、他の学問分野と比較すると急激な落ち込みを見せており、本学では特に英語コミュニケーション学科への影響が大きい。令和 3 年度・令和 4 年度の当該学部入学者数比率はそれぞれ 0.87、0.59 となっており、再び予断を許さない状況となっている。

一方、現代経営学部現代経営学科については、令和 3 年度入学者数こそ定員充足には至らなかったものの、令和 4 年度を起点とした過去 5 年間の入学者数比率の平均は 1.04 と安定しており、本学マイページ登録者やオープンキャンパス参加者の志望学科調査では、常に志望度の高い学科として位置づけられている。また、「学生[※]の確保の見通し等を記載した書類」においても後述するが、令和 5 年度より「経営・経済・マーケティング」の 3 領域をまたぎながら学びを深化させるカリキュラム変更を予定している。自身の夢や目標から逆引きで学びの方向を選択できる 6 つのコースを設定することで、基礎から応用、実践とわかりやすく学びをデザインできるよう工夫した。また、ビジネスの世界でも進んでいるグローバル化に対応すべく、経営戦略やマーケティングなどの専門科目を英語で学ぶ科目の設置や、立地を生かした産学連携の推進など、「都心・現代・実践」をキーワードに広報を展開中である。学校法人として 100 周年を迎える節目の年にカリキュラム完成年度となることから、グローバル・コミュニケーション学部の学生確保は無論のこと、本学フラッグシップ学部としての「現代経営学部」の位置づけを模索しつつ、定員管理に努めたいと考えている。

これらのことから、グローバル・コミュニケーション学科と英語コミュニケーション学科および現代経営学科の間で入学定員の振替を行い、受験生の需要に沿った定員設定とすることとした。

(表 2) 現代経営学部およびグローバル・コミュニケーション学部志願者数・入学者数

学部・学科		平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	入学者数 比率平均
現代経営学部 現代経営学科	入学定員	215 名	215 名	215 名	215 名	215 名	
	志願者数	810 名	1,014 名	1,183 名	1,179 名	774 名	
	入学者数	236 名	235 名	221 名	196 名	230 名	
	入学者数比率	1.10	1.09	1.03	0.91	1.07	1.04
グローバル・ コミュニケーション 学科	入学定員	120 名	120 名	120 名	120 名	120 名	
	志願者数	529 名	720 名	610 名	653 名	363 名	
	入学者数	125 名	131 名	121 名	119 名	78 名	
	入学者数比率	1.04	1.09	1.01	0.99	0.65	0.96

英語 コミュニケーション 学科	入学定員	120 名	120 名	120 名	120 名	120 名	
	志願者数	568 名	645 名	559 名	525 名	284 名	
	入学者数	144 名	136 名	112 名	90 名	63 名	
	入学者数比率	1.20	1.13	0.93	0.75	0.53	0.91
グローバル・ コミュニケーション 学部	入学定員	240 名	240 名	240 名	240 名	240 名	
	志願者数	1,097 名	1,365 名	1,169 名	1,178 名	647 名	
	入学者数	269 名	267 名	233 名	209 名	141 名	
	入学者数比率	1.12	1.11	0.97	0.87	0.59	0.93

(表 3) グローバル・コミュニケーション学部 収容定員数・在籍学生数

学部・学科		平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	在籍者数 比率平均
グローバル・ コミュニケーション 学科	収容定員	500 名	500 名	500 名	500 名	500 名	
	在籍者数	385 名	424 名	445 名	472 名	457 名	
	在籍学生数比率	0.77	0.85	0.89	0.94	0.91	0.87
英語 コミュニケーション 学科	収容定員	500 名	500 名	500 名	500 名	500 名	
	在籍者数	514 名	516 名	508 名	468 名	402 名	
	在籍学生数比率	1.03	1.03	1.02	0.94	0.80	0.96
グローバル・ コミュニケーション 学部	収容定員	1,000 名	1,000 名	1,000 名	1,000 名	1,000 名	
	在籍者数	902 名	940 名	953 名	940 名	859 名	
	在籍学生数比率	0.90	0.94	0.95	0.94	0.86	0.92

※マイページについて

株式会社マイナビが提供する学生募集・業務支援アプリケーション「進学アクセスオンライン」によるサービス。志望学科や在籍高校、希望の試験区分を登録することで、オープンキャンパス等イベントの予約や、登録者限定の入試情報配信サービスを受けることが出来る。

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程について

現代経営学部現代経営学科では収容定員の増加を踏まえ、専任教員を新たに 4 名採用し、これまで進めてきたカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性の検証結果を反映する形で、令和 5 年度よりカリキュラム改編を実施する。今回の改編はディプロマ・ポリシーに掲げる 3 つの能力①「情報への高い感度をもって経済社会を観察し、学んだことを生かして分析する能力」②「顧客や社会の課題を発見し、解決方法を考え計画的に実行する能力」③「グローバル化する社会における新しい価値の創造に向け、自分の強みを生かして他の人々と共同する能力」を修得させる為、カリキュラムの基本概念をそれぞれ「理論」、「応用」、「実践」という「階層構造」とし、それぞれにある学問の括りにとらわれず、

「経営・経済・マーケティング」の領域を跨いで学習できるよう、学びの流れをつくることとした。具体的には6つのコース（ビジネスリーダーコース、ベンチャー・事業継承コース、会計・ファイナンスコース、政策・エコノミクスコース、メディア・マーケティングコース、消費者心理・サービスマーケティングコース）は設置するが、それらは目標に向かって領域を跨いだ学びを行う道筋を示すものとして位置づけ、科目間の連携の柔軟性を意識し、学問領域間連携、専門科目・英語科目連携、学問・ビジネス連携などにより、複合的な視点で学ぶことを意図したものとなる。

収容定員が減少するグローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科及びグローバル・コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科については、今回の学則変更により教育課程の変更の予定はないが、引き続きディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた教育のアセスメントを継続して行うことで更なる教育内容の充実に努め、豊かな教養を土台として言葉のスキルを磨き、社会で活躍するための論理的思考力とコミュニケーション能力を身につけた人材の輩出を目指す。

以上のことから学則変更に伴う各学科の教育課程は、各学科の収容定員変更後も同等以上の内容を担保できると考えている。

（イ）教育方法及び履修指導方法について

現代経営学部現代経営学科では、教育方法及び履修指導方法の変更は予定していない。現状では、初年次の全学共通の教養基礎演習に加え、2年次、3年次及び4年次においては専門演習科目を配置し、大学における学修方法を段階的に徹底して身に付けさせ、特定の指導教員に常に学びについて相談できる体制を設けている。また、時代のニーズに合わせてコースを配置し、進路を意識して各領域から必要な学びを積み上げるよう必修科目を設定するとともに、各コースの履修モデルを参照しながら、なるべく学生自身が自分の学びを選択できるようにしている。さらに、ケーススタディ、グループワーク、プレゼンテーション、PBLの活用等により、学生が自ら問題を発見し、他の学生と協力して解決策を考えるなど、自律的・主体的に学修に取り組むことを促している。これらの教育方法に加え、後述の履修指導により、教育の質は担保できると考えている。

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科、グローバル・コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科においても教育方法、履修指導についての変更は予定していないが、学修における到達目標を明示した上でよりきめ細やかな指導を継続することによって教育の質は担保できると考える。

【現状の全学的履修指導方法】

・指導教員制を設けており、入学時の指導、修学上のアドバイスなどを行っている。また、学生は「オフィスアワー」を利用して学業、学生生活に関する相談ができる体制も整えている。

・履修科目の選択に際しては、毎学期開始時に科目履修に関するオリエンテーションが行われており、学生は出席して指導を受けなければならない。その他、学期ごとの GPA と入学時からの通算 GPA を算出し成績通知書に記載したうえ学生へ提示しているが、これにより各自が学業成績の状況や学習の成果を客観的に判断することができる。また、この通算 GPA は卒業要件（2.0 以上）となっており、指導教員による履修指導を行っている。

・令和 4 年度より、学習成果を可視化し、学生自身が自律的に教育成果を把握していくとともに、教員もそれを管理し、改善を促していくためのツールとして、学習支援システム（キャンパスクロス）及びポートフォリオを導入した。

上記の通り、今回の学則変更に伴う教育方法・履修指導方法を変更することはないが、今後とも、教育方法・履修指導方法の整備と充実に努めることとする。

（ウ）教員組織について

今回の収容定員変更によって、大学設置基準第 13 条で定められた必要専任教員数がグローバル・コミュニケーション学科においては 7 名から 6 名へ、英語コミュニケーション学科においては 7 名から 6 名へ、現代経営学科は 15 名から 16 名へと変更となるが、設置計画当初からこれらの必要専任教員数を上回る専任教員を配置（グローバル・コミュニケーション学科 16 名、英語コミュニケーション学科 13 名、現代経営学科 19 名）している。

その上で、グローバル・コミュニケーション学科において、令和 4 年度で 2 名の専任教員が定年退職するが、退職者を減員しても必要専任教員数を上回っているため、新たに専任教員の採用は行わない。

英語コミュニケーション学科においては、令和 4 年度で 1 名の専任教員が定年退職するため、新たに 1 名を採用する。これは、退職に伴う専任教員の減少を補うと同時に同学科のカリキュラムで力を入れるべきコミュニケーション学や国際キャリアプログラムによる海外留学支援教育を行うことができる人材の採用が必要になるためである。

現代経営学部現代経営学科においては、先述の通り必要専任教員数が 15 名から 16 名となる。現在の配置人数でも基準を上回っているが、今後きめ細やかな教育を維持するため、専任教員を新たに 4 名採用する。

以上の教員補充を行うことで、グローバル・コミュニケーション学科 14 名、英語コミュニケーション学科 13 名、現代経営学科 23 名の専任教員数となり、計画していた教育課程・教育内容を実施していく上での支障はない。今後も大学設置基準を遵守し、学生指導に不足の無い教員組織を維持する。

（エ）大学全体の施設・設備について

今回は、既存学科の収容定員変更であり、既存の施設・設備で対応が可能である。今回の収容定員変更を行っても、大学全体の収容定員の変更はないため、十分な施設・設備は備わっているので、大幅な変更は行わない。

学生の確保の見通しなどを記載した書類 目次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

(ア)定員充足の見込みp.2

(イ)定員充足の根拠となる客観的データの概要.....p.4

② 学生確保に向けた具体的な取組状況p.6

2. 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）p.10

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を

踏まえたものであることの客観的な根拠p.10

学生の確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

(ア) 定員充足の見込み

今回の収容定員変更の内容については、「学則の変更の趣旨等を記載した書類」に記したとおり、現代経営学部現代経営学科およびグローバル・コミュニケーション学部のグローバル・コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科の間で入学定員の振替を行い、受験生の需要に沿った定員設定とすることである。

現代経営学部は、下記（表 1）のように過去 5 年間堅調で、令和 3 年度の入学者数比率は 0.91 となったもののこの年は 1000 名を超える志願者数となっており、令和 4 年度は志願者数こそ前年から下げているものの入学者数比率 1.07 と定員を充足している。

一方、グローバル・コミュニケーション学部は平成 30 年度から令和 2 年度までの入学者数は順調であったが、コロナ禍の令和 3 年度以降は下降傾向となり、令和 4 年度の入学者数比率は 0.59 と厳しい状況となった。

（表 1）現代経営学部およびグローバル・コミュニケーション学部志願者数・入学者数

学部・学科		平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
現代経営学部 現代経営学科	入学定員	215 名	215 名	215 名	215 名	215 名
	志願者数	810 名	1,014 名	1,183 名	1,179 名	774 名
	入学者数	236 名	235 名	221 名	196 名	230 名
	入学者数比率	1.10	1.09	1.03	0.91	1.07
グローバル・ コミュニケーション学科	入学定員	120 名	120 名	120 名	120 名	120 名
	志願者数	529 名	720 名	610 名	653 名	363 名
	入学者数	125 名	131 名	121 名	119 名	78 名
	入学者数比率	1.04	1.09	1.01	0.99	0.65
英語 コミュニケーション学科	入学定員	120 名	120 名	120 名	120 名	120 名
	志願者数	568 名	645 名	559 名	525 名	284 名
	入学者数	144 名	136 名	112 名	90 名	63 名
	入学者数比率	1.20	1.13	0.93	0.75	0.53
グローバル・ コミュニケーション学部	入学定員	240 名	240 名	240 名	240 名	240 名
	志願者数	1,097 名	1,365 名	1,169 名	1,178 名	647 名
	入学者数	269 名	267 名	233 名	209 名	141 名
	入学者数比率	1.12	1.11	0.97	0.87	0.59

なお、定員設定の考え方として学科ごとの定員増減があったとしても、教育方法、教員組織、施設、設備の充実を図ることにより、それぞれの所属学生に支障なく現行の教育課程が実施可能なこと、並びに過去3か年の志願者数やマイページ登録者、オープンキャンパス参加者の希望学科の推移等を精査し、現代経営学部現代経営学科245名、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科110名、グローバル・コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科100名が適切であると判断した。

過去2か年のマイページ登録者による志望学科は（表2）のとおり、グローバル系学科と比べ現代経営学科が多く、特に令和3年度についてはグローバル・コミュニケーション学科が404名、英語コミュニケーション学科が298名であることに對して、現代経営学科では前年から300%超えの907名と増大した。

（表2）マイページ*登録者の志望学科

年度	志望学科		
	現代経営学科	グローバル・コミュニケーション学科	英語コミュニケーション学科
令和2年度**	282	150	124
令和3年度	907	404	298

※マイページ：「学則の変更の趣旨等を記載した書類」の「マイページについて」を参照。

※※令和2年度は7月から運用開始。

オープンキャンパス参加者およびオンライン個別相談者の志望学科は（表3）のとおり現代経営学科志望者数がグローバル系の学科を大きく上回っている。

（表3）オープンキャンパス参加者およびオンライン個別相談者の志望学科

年度	志望学科		
	現代経営学科	グローバル・コミュニケーション学科	英語コミュニケーション学科
令和2年度*	53	37	24
令和3年度**	309	138	120

※令和2年度はオンライン個別相談の数字。

※※令和3年度は主にカスタムオープンキャンパス参加者による志望学科調査。

両年度とも志望学科を複数回答可としているためグローバル・コミュニケーション学部については令和2年度が2名、令和3年度が40名重複回答である。

進学動向の調査でも、志望学問領域の動向が確認できる。【資料1-1～3】のベネッセコーポレーションによる調査である。この調査の「学問系統別志願状況」では首都圏の志願者数全体が減少しており、特に英米語志願者の減少が顕著となっている。一方、経営・商学系でも志願者数としては減少しているものの、英米語、国際関係学、文化学の志願者総数が合計約12万人に対し経営・商学系は約20万人と多いことから、市場としての

規模が大きいと判断できる。【資料 1－1】また、本学のベンチマーク大学の志願状況では、グローバル・コミュニケーション学部関連での志願倍率が大きく下がり定員充足も厳しい状況となっているが、現代経営学部関連では志願倍率の低下幅は小さく、定員充足状況でも安定していると判断できる。【資料 1－2、資料 1－3】

また、現代経営学部では令和 5 年度よりカリキュラムの変更を予定している。変更の概要は、いままでマーケティング領域の志望者が多くの割合を占めていた同学科の強みを活かしながら、さらに経営や経済の領域でも特徴を出し裾野を広げていくための考え方として、「経営・経済・マーケティング」の 3 領域をまたぎ学びを深化させるカリキュラムとしている。具体的には自身の夢や目標から逆引きで学びの方向を選択できる 6 つのコース「ビジネスリーダーコース」「ベンチャー・事業承継コース」「会計・ファイナンスコース」「政策・エコノミクスコース」「メディア・マーケティングコース」「消費者心理・サービスマーケティングコース」の設定で、これらのコースはいずれもすべての領域の基礎理論を学んだのち、自身が学びたい専門領域についての応用、実践へと進む流れとなっている。また、ビジネスの世界でも進んでいるグローバル化に対応すべく、経営やマーケティング、エコノミクスなどの専門領域を英語で学ぶ科目を設置し、ビジネスの課題に対して経営戦略や戦術などを企画立案し英語でプレゼンテーションするなど実践的な英語教育も実施する。さらに立地を生かした産学連携の推進など、「都心・現代・実践」をキーワードに現代経営学部を本学のフラッグシップ学部と位置付け、新たな広報戦略のもと展開予定である。学校法人として 100 周年を迎える節目の年にカリキュラム完成年度となることから、グローバル・コミュニケーション学部の学生確保は無論のこと、「現代経営学部」の位置づけを確立させ、定員管理に努めたいと考えている。

(イ) 定員充足の根拠となる客観的データの概要

- i. グローバル・コミュニケーション学部志願者数・入学者数、現代経営学部志願者数・入学者数
上記（表 1）のとおり
- ii. マイページ登録者の志望学科
上記（表 2）のとおり
- iii. オンライン個別相談及びオープンキャンパス参加者の志望学科
上記（表 3）のとおり

iv. 学問系統別志願状況【資料1-1～3】

経営・商学系統、英米語・国際関係学系統：志願状況

経営・商学系統、英米語・国際関係学系統：併願関係にある近隣大学の志願状況・入学定員充足状況

調査時期：令和4年7月

調査方法：学問系統（経営・商学系統、英米語・国際関係学系統）および個別大学

（学部・学科）の志願状況（一般選抜）は、ベネッセコーポレーション2022年度入試結果調査データに基づく。入学定員充足状況は、各大学のホームページ公表に基づく。

調査対象：学問系統の志願状況は、私立大（全国および首都圏）を対象とし、ベネッセコーポレーション2022年度入試結果調査に基づく。個別大学については、現代経営学部およびグローバル・コミュニケーション学部と併願関係にある近隣大学（学部・学科）を対象に、各10大学抽出。

結果概要：

〈経営・商学系〉

2020～2022年度入試の学問系統の志願状況を見ると、2022年度の志願者数（対2020年指数）は、経営・商学系統は、全国（84）、首都圏（84）ともに減少している。2022年度入試では、前年に比べ微減に留まっている。2022年度入試の首都圏のマーケット規模（志願者数）は約197,000人で、英米語系統と国際関係学系統を合わせたマーケット規模（約71,000人）の約2.8倍あり、マーケットは大きい。【資料1-1】

経営・商学系の個別大学の志願状況を見ると、2021年度入試の志願者数は減少した大学が多かったが、実質倍率3倍以上の大学が多い。2022年度入試では、実質倍率はやや下がったものの、2～3倍台の大学が多く、英米語・国際関係学系の大学に比べ、実質倍率は高い状況にある。【資料1-2】また、入学定員充足状況においては、2021年度は定員充足している大学が多く、100%を下回る場合でも94～99%台に留まっている。また、2022年度（7月現在公表）は各大学で入学定員を充足しており、英米語・国際関係学系のような厳しい募集環境にはなっておらず、比較的安定して入学者を確保している。【資料1-3】

〈英米語・国際関係学系〉

2020～2022年度入試の学問系統の志願状況を見ると、2022年度の志願者数（対2020年指数）は、英米語系統は、全国（68）、首都圏（74）ともに大幅に減少している。全国、首都圏において志願者は経年で減少しており、2022年度の首都圏のマーケット規模（志願者数）は約26,000人。国際関係学系統では、全国（88）、首都圏

(87) で 2020 年度と比べ減少している。2022 年度は、前年に比べ首都圏の志願者数はやや増加したものの大幅な伸びは見られず、2022 年度の首都圏のマーケット規模（志願者数）は約 45,000 人。【資料 1－1】英米語・国際関係学系の個別大学の志願状況を見ると、2021 年度入試の志願者の減少が顕著。また、2022 年度入試も減少している大学が多く、実質倍率 1 倍台の大学が増加している。【資料 1－2】また、入学定員充足状況においては、2021 年度以降、定員充足率 100%を大幅に下回る大学が増加しており、厳しい募集環境になっている。【資料 1－3】

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生募集の広報は入試広報センターが行っており、大学の認知やイメージ向上も学生募集に資するとして大学全体の一般広報から学生募集広報に至るまで中期・短期の戦略を策定し具体的な戦術面での施策・活動を推進している。戦略の大きな柱としてはホームページを中心としたデジタルでのコミュニケーションとなっており、各種デジタル広告やマーケティングオートメーションツールを活用したメールでの情報提供、動画配信など様々な施策を実施しているが、リアルの場合でも対面式の個別オープンキャンパスで受験生と直接対峙した情報提供なども心がけ、オンラインとオフラインを融合させた各種施策により一定の効果をあげていると考える。また、高校訪問や高校との連携も充実を図っており、高大接続の新たなプログラムを開発するなど高校との関係強化にも努めている。

施策ごとの具体的な活動を以下に記す。

(ア) オープンキャンパス

本学のオープンキャンパスは感染症対策の観点から 2020 年以降大規模な多人数来場型から個別対応の少人数制オープンキャンパスにシフトしている。具体的には完全個別対応でキャンパス見学から入試相談を約 1 時間半で行う「カスタムオーキャン プレミアム」と最大 10 人の小グループで大学説明からキャンパス見학을 1 時間程度で行う「カスタムオーキャン ライト」の 2 種類を用意し、月曜から土曜日のほぼ毎日実施している。

予約・実施状況は予約申込枠を開放するとすぐ埋まるほど好調に推移しており、個別に受験生やその保護者と直接会話することでニーズに沿った対応ができ、またキャンパス見学は在学生在が案内することで学生との直接対話も生まれ、全体を通して参加者にとって非常に満足度の高いオープンキャンパスとなっている。

令和 4 年 8 月には 3 年ぶりとなる今年度で唯一の多人数来場型のオープンキャンパスを実施し、模擬講義や各種学びの体験会、入試対策講座など、多岐に渡るプログラムを実施。教員との会話機会も設けるなど、「カスタムオーキャン」と差別化したイベントを用意し、カスタムオーキャン参加者にも再来場を促すなど、各施策を有機的に結びつけるこ

とで、大学理解を促進できるよう受験生の要望に沿った細かな対応を心がけている。

(イ) ホームページを中心としたオウンドメディア

ホームページを中心としたデジタル媒体は、いまや受験生が大学情報を収集する主たる媒体となっている。その中でも受験生向けのウェブサイトの役割は重要であるため大学情報や学部情報、在学生・卒業生の情報に加え、大学紹介や入試対策系、学生生活の動画、360°のキャンパス紹介など、コンテンツには工夫を凝らしている。またオープンキャンパスの来場申し込みまでの態度変容を促す役割もあり、オープンキャンパスの来場者増にも寄与している。また以下（表4）のように、過去5年間のホームページのアクセスユーザー数は毎年増加を続けており、デジタル広告施策など相まって効果をあげている。

（表4）ホームページのアクセスユーザー数の推移

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
アクセス ユーザー数	339,048	409,311	431,758	560,045	704,277

また、その他にも SNS を活用した施策にも積極的に取り組んでおり、公式 YouTube チャンネルにて多様な動画を配信し、公式 Twitter や公式 Facebook でも教育活動情報を中心に発信している。

(ウ) Web 媒体の活用

受験生が進学先情報の閲覧のために訪れる各種進学サイトに掲載し広告も展開。旺文社「パスナビ」、マイナビ「マイナビ進学」、リクルート「スタディサプリ」など多くの進学情報サイトを活用している。また、Google や Yahoo の検索サイトへのリスティング広告やバナーのネットワーク広告、Twitter・Instagram などの SNS 広告、YouTube などの動画広告、FM ラジオや Spotify などのデジタル音声広告など、高校生が良く利用する媒体に広く出稿し高校生の認知拡大、理解促進活動を推進している。

(エ) データベース・マーケティング

資料請求者やオープンキャンパス参加者をセグメント分けしたデータベース・マーケティングを実施。特に、オープンキャンパスの予約申し込みの際にマイページへの登録を必要とすることで、志望度合いや志望学科、在籍高校、希望の試験区分などの情報を集め、登録後はマイページ内を中心にイベント予約や入試情報配信を行っている。また、マイページ登録者には個別に必要な情報を提供できるように、細かくセグメント分けを行い、マーケティングオートメーションシステムを活用したメールでの情報提供を推進し、出願ま

での態度変容を促している。

マイページ登録者数の推移は（表 5）のとおりである。

（表 5）マイページ登録者数の推移

年度	令和 2 年度*	令和 3 年度	令和 4 年度**
高 3 生及び既卒者の登録人数	593 人	1,991 人	970 人

※令和 2 年度は 7 月から運用を開始

※※令和 4 年度は 7 月末までの登録人数

（オ）大学案内パンフレット

受験生を中心に保護者や高校教員に本学への理解を深めてもらうことを目的に 84 ページの大学案内パンフレットを制作。本学の特長はじめ各学部情報、進路状況、入試情報、学生生活などを網羅し、資料請求者、オープンキャンパス来場者、各高校向けに令和 4 年度は 25,000 部印刷し配布している。

さらに、デジタル化し受験生向けウェブサイトにも掲載している。

（カ）学部パンフレット

各学部の学びの特長や具体的な教育内容を紹介した学部パンフレットを制作している。在学生がどのように日々の学び・研究に取り組んでいるかなどを多く紹介することで、受験生が進学後に学ぶ内容をわかりやすく訴求している。

学部パンフレットは印刷せず、デジタルパンフレットとして公開しており、必要に応じてプリント配布も行っている。

（キ）TOGAKU PRESS 【資料 2】

在学生のリアルを紹介する広報誌として A4 サイズ 12 ページで年 2 回発行している。在学生が取り組んでいる様々な活動を毎号特集記事として紹介、大学案内パンフレットでは紹介しきれない旬な学生活動情報を届ける役割としている。そのほかニュースやクラブ・サークル活動の最新情報など、読み物としても充実した誌面構成としており、5,000 部印刷してオープンキャンパス来場者や高校訪問での大学最新情報の説明資料としている。また、こちらもデジタルパンフレットとして受験生向けウェブサイトに掲載し、誰もが閲覧できるようにしている。

（ク）高校訪問

各高等学校の進路指導担当教員に対して本学の理解を深めてもらうことを目的とし進学実績が高い一都三県の高等学校を中心に、地方の高等学校も加え幅広く訪問している。そのため、本学では専門の訪問チームによって行うのみではなく、専任の事務職員の多くが

所属部署の業務と平行して高校訪問業務にも携わり、各自の担当校と密な連携を図るよう努めている。このことは職員の学生確保に対する意識の醸成にも大きく寄与している。

令和3年度及び令和4年度7月までの実績は（表6）のとおり、令和3年度と比べ令和4年度は訪問人数も増員し、積極的に高校訪問活動を推進している。（令和2年度はコロナ禍により訪問校数は少ない）

（表6）高校訪問実績数

年度	対象校数	訪問済み校数	訪問述べ回数	訪問人数
令和3年度	852校	516校	883回	46人
令和4年度*	810校	449校	449回	48人

※令和4年度は4月～7月末までの数字

（ケ）高校別ガイダンス

各高等学校が校内で開催する進路説明会に積極的に参加している。特に前述の高校訪問における担当者が参加することにより、担当高等学校の生徒に直接本学の特色や教育内容を伝えることが良い機会となり、さらには担当者と高等学校とのリレーション強化にもつながっている。令和2年度はコロナ禍により参加はしていないが、令和3年度の実績は表7の通り。

（表7）高校別ガイダンス参加数

年度	オンライン参加	対面参加	合計参加数
令和3年度	6校	105校	111校

（コ）会場ガイダンス（進学相談会）

一都三県のみならず各地域の会場で開催される進学相談会にも参加している。各会場には様々な高等学校から生徒が訪れるため、幅広い層に本学を知り、理解を深める機会となっている。令和2年度はコロナ禍により参加はしていないが、令和3年度は13会場のガイダンスに参加した。

（サ）高大接続・訪問講義

本学では大学のリソースを高等学校に提供するいくつかの高大接続に関する取組を行っている。高校1～2年生が中心となることが多いが、大学での学ぶ分野についての理解を深めてもらうことや本学への理解を促す機会として積極的に実施している。

本学のネイティブスピーカー教員や海外大学からのインターンを高等学校に派遣する「出張イングリッシュ・ラウンジ」では、令和元年度に3回実施。令和2年度はコロナ禍となりオンラインでつながる「Virtual English Lounge」に切り替え、この年は1回の実

施にとどまったものの、令和3年度は4回と増やすことができた。また、高等学校新学習指導要領の必修科目「総合的な探究の時間」での学習サポートプログラムを開発し、令和4年度にトライアルを実施、チョコレートをテーマにしたプログラムで高校生約40名を迎え、参加者の満足度の高い内容となった。

本学教員が高等学校に出向く訪問講義は、令和2年度がコロナ禍で3件にとどまっていたものの、令和3年度は10件と増え、令和4年度に入り高校からの要請もさらに増えている。

(シ) 現代経営研究会 【資料3】

現代経営研究会は、現代経営学部の教員が中心となり様々な業界の企業リーダーを招き本学にて講演を行う一般にも公開している講座である。本学学生にも現代経営学部の科目として「トップマネジメント特別講義」の科目名で開講しており、昨年度から単位互換協定を結んでいる近隣の文京学院大学の学生も履修できるようにしている。ここ数年はオンラインでの開催が中心となっているが、有名企業のトップマネジメントの講演とあって、ビジネスパーソンを中心に一般の方からの聴講者も多く、人気の講座となっている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

現代経営学部は、ビジネスコミュニケーションに必要な語学力と教養に加え、経営学・経済学・マーケティングの理論及び応用を学ぶことにより、学生が自ら問題を発見し、他の学生と協力して解決策を考えるなど、自律的・主体的に学修に取り組むことを促すことで、課題発見力・行動力・他の人々と協働する力を修得させ、社会の持続的発展に貢献する人材を輩出することを目的とする。

グローバル・コミュニケーション学部は、国際社会や異文化に関する多角的な理解とそれを社会で活かす力を養い、英語を核とする外国語を用い多様な人々とコミュニケーションできる力を高めて、グローバル化する社会で求められる人物を育成することを目的とする。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

今回の変更において収容定員が増加する現代経営学部では、課題解決能力や主体性、チームワーク、協調性など、企業が求める人材を輩出することを教育課程の主軸に置いている。

この企業が求める人材の客観的な資料として【資料4】の令和4年1月18日に公開された一般社団法人日本経済団体連合会の『採用と大学改革への期待に関するアンケート結果』からも読み取れる。この資料では、ポストコロナの大学教育のあり方を議論する中で

企業の求める人材像等を調査したものであるが、その冒頭に「採用の観点から、大卒者に特に期待する資質・能力・知識」がある。その中で＜特に期待する資質＞として回答企業の8割が「主体性」「チームワーク・リーダーシップ・協調性」を挙げており、＜特に期待する能力＞としては上位2項目が「課題設定・解決能力」「論理的思考力」となっている。これらはいずれも現代経営学部が標榜している教育目標と合致していることが分かる。また、現代経営学部で開講しているゼミの多くが課題解決型の産学連携による教育活動を推進しており、これも「今後優先的に取り組むべき教育改革」として、「課題解決型の教育プログラム（PBL等）の充実」（68%）がトップ項目で、「優先的に取り組むべき教育環境・システム面の改革」では、「企業や行政等と連携した実践的な教育プログラムの推進」（64%）がトップに挙がり、同学部が推進している教育と合致している。

グローバル・コミュニケーション学部では、収容定員が減少するとはいえ社会の需要に応える人材の輩出が肝要であるが、社会的な背景としてもポストコロナを見据えた国際交流の回復が望まれているところであり、それを裏付ける根拠として文部科学省が令和4年7月26日に公表した資料『高等教育を軸としたグローバル政策の方向性 ～コロナ禍で激減した学生交流の回復に向けて～』【資料5】がある。この資料では、コロナ禍で激減した学生の国際交流の回復とその取組について5年後にコロナ禍前の水準に留学を回復することを目標・施策の方向性として提言している。その中で「企業がグローバル事業で活躍する人材に求める素質、知識・能力」の上位が「海外との差異に興味・関心を持ち、柔軟に対応する姿勢」、「既成概念にとらわれず、チャレンジ精神を持続ける」、「外国語によるコミュニケーション能力」であり、「企業がグローバル人材育成に向けて大学に期待する取り組み」としては、トップ項目が「日本人学生の海外留学の奨励」となっていることから、グローバル・コミュニケーション学部の教育目標をさらに高い次元で推進することが、社会的な人材需要に応えることとなる。

過去3か年分の現代経営学部とグローバル・コミュニケーション学部における就職希望者の就職率は（表8）のとおりである。コロナ禍が始まった令和2年度は現代経営学部とグローバル・コミュニケーション学部ともに96.0から90.5%と前年度から5.5%落ち込む結果となったが、令和3年度は現代経営学部93.5%、グローバル・コミュニケーション学部が91.9%と両学部ともに改善しているものの、現代経営学部の方が戻り幅は大きい。

（表8）就職希望者の就職率

年度	現代経営学部	グローバル・ コミュニケーション学部
令和元年度	96.0%	96.0%
令和2年度	90.5%	90.5%
令和3年度	93.5%	91.9%

以上のことから今回の変更によって収容定員が増加する現代経営学部、収容定員が減少

するグローバル・コミュニケーション学部とともに養成する人材に対する社会的、地域的な需要は十分にあると考え、現代経営学部現代経営学科、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科、グローバル・コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科において入学定員の振替を行うこととした。

学生の確保の見通しなどを記載した書類 資料目次

【資料 1-1】学部系統別志願状況（ベネッセコーポレーション調べ）	p.2
【資料 1-2】対象大学志願状況（ベネッセコーポレーション調べ）	p.3
【資料 1-3】対象大学入学定員充足状況（進研アド調べ）	p.4
【資料 2】東洋学園大学「TOGAKU PRESS」	p.5
【資料 3】東洋学園大学現代経営学部・大学院現代経営研究科「現代経営研究会」	p.12
【資料 4】「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」（日本経済団体連合会）	p.13
【資料 5】「高等教育を軸としたグローバル政策の方向性」（文部科学省）	p.35

著作権者の許諾が得られない書類等

1（書類等の題名）

資料 1-1 学部系統別志願状況

2（出典）

ベネッセコーポレーション

3（引用範囲）

収容定員変更を行う学部の系統における「全国、首都圏、関東の募集人員、志願者数」

4（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）としての提供であり【省略】とする。

著作権者の許諾が得られない書類等

1（書類等の題名）

資料 1-2 対象大学志願状況

2（出典）

ベネッセコーポレーション

3（引用範囲）

収容定員変更を行う学部ベンチマークと位置づける各大学の志願状況

4（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）としての提供であり【省略】とする。

著作権者の許諾が得られない書類等

1（書類等の題名）

資料 1-3 対象大学入学定員充足状況

2（出典）

進研アド

3（引用範囲）

収容定員変更を行う学部ベンチマークと位置づける各大学の入学定員充足状況

4（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）としての提供であり【省略】とする。



TOGAKU PRESS

TOGAKU 生の活躍を
応援するマガジン

学生目線で調査！

変わりゆく TOGAKU を

100 周年に向けて進化する
TOGAKU のあれこれを
ワースタがレポートします！

辻中学長ってどんな人？
新学長の人柄に迫る！

愛知理事長に聞く

100 周年に向けての展望

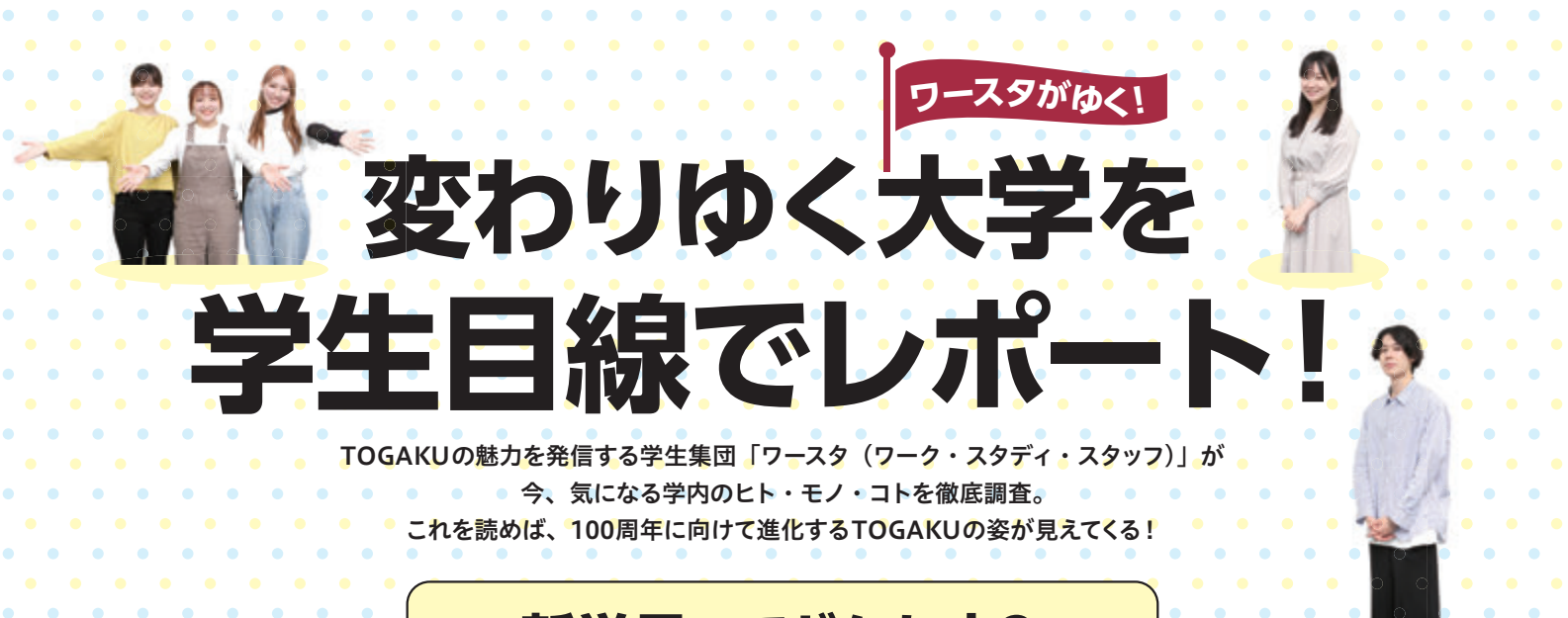
新 English Lounge の情報も！

進化の現場に潜入取材

自彊不息でいこう

“国際支援の夢に向けて奮闘中！”

後藤瑠花さん(グローバル・コミュニケーション学科4年)
詳しくはP.12へ



新学長ってどんな人？

この春から新学長に就任した辻中豊先生とワースタの対談が実現。
新学長がどんな人なのか探るべく、学生代表として話を聞きました！

先生のこと
いろいろ教えてください！

新学長の辻中です

よろしくお願いします！

飯村莉子さん(グローバル・コミュニケーション学科3年)

古崎菜名加さん(グローバル・コミュニケーション学科2年)

鈴木愛羅さん(グローバル・コミュニケーション学科3年)

石田和馬さん(現代経営学科2年)



今年4月から新学長に就任した 辻中豊先生のメッセージ

私はこれまで41年間にわたって、4つの大学で教育と研究に励んできました。しかし、東洋学園大学では新入生。皆さんと一緒にこれから学んでいきたいと思っています。

東洋学園大学の建学の精神である自強不息の「彊」には、「田んぼを区切り、弓で守る」という意味があります。つまり、自強不息は「たゆまず自ら努めて励み、自分の愛するフィールドを強化し続ける」ということだと思います。

自分の好きなフィールドを見つけるためには、「自分を知る」ことが重要です。そこでおすすめしたいのが、「自分ノート」をつけること。自分が

生き生きする、おもしろい、楽しい、不思議だ、と感じたことを手帳やノート、スマホのメモ機能などに書きとめる習慣をつけてみましょう。私自身も大学時代に「自分ノート」を作り、書きとめた内容を時々読み返すことで、自分を知ることができました。

自分の好きなフィールドを見つけることは、実は大学生の一番大きな仕事ではないかと私は思っています。焦る必要はありません。ゆっくり、しっかり、少しずつ、たゆまず進みましょう。迷った時、困った時には私や先生方、職員にいつでも相談してくださいね。私たちは全力で皆さんを支えます。

辻中豊(つじなか・ゆたか)

大阪大学大学院法学研究科公法学専攻(修士)。博士(法学) 京都大学。コーネル大学客員(フルブライト、ACLS) 研究員。筑波大学人文社会系教授、副学長。東海大学政治経済学部教授、副学長。国際大学協会アジア代表理事(2012-16)。日本政治学会理事長(2014-16)。学校法人東洋学園評議員、理事を経て現職。



清水いつみさん
(現代経営学科4年)

新学長の人柄に迫る
質問をしてみました！

Q 学長の自慢は何ですか？

以前は留学生の多い筑波大学にいて、9～10カ国30人くらいの学生に博士号を与えた——、つまり博士を育てた、ということが自慢のひとつです。また、同志社大学や関西学院大学、大阪大学など、さまざまな大学に弟子がいて、それぞれに活躍している、ということも自慢できることでしょうか。

Q 東洋学園大学の学生だったら、どんなサークルに入りたいですか？

それはダンスでしょう！と言いたいところですが、無理ですね(笑)。私は学生時代、サークルではないけれど、男友達で集まってよく合唱をしていたので、サークルに入るなら歌唱系かな。昔はそれなりに歌がうまくて、フォークソングやニューミュージックなどを歌っていたんですよ(笑)。

Q もしも特殊能力を手に入れられるとしたら？

分身の術が使えたらいいな、と前から思っています。そうしたら3人に分かれて、1人は私生活、1人は学長、1人は研究をする。これが私の望みですね(笑)。



なるほど…

Q 今後、学長の授業を受けられる機会はありますか？

講演のようなものができたらやりたいですね。また、学生さんの「生の声」が聞きたいので、オフィスアワーを設けたいとも思っています。私はこれまで世界15カ国で調査をしてきましたが、いつも各国の学生さんにお手伝いをお願いしています。私にとっては、学生さんと一緒にいることがエネルギー源。直接話をし、いろいろ教えてほしいと思っています。

Q 東洋学園大学やTOGAKU生の第一印象は？

まだ学生さんにあまり会っていないので、これから学内を周って会いたいです。でも、ワースタの皆さんを見る限りおしゃれで、さすが都心の大学という感じがですね。私は大阪出身なので、東京のど真ん中というのは私にとっても魅力的です。

Q 学生時代にがんばっていたことは？

大学で法学部に入ったけれど、法律にはあまり馴染めず、協道に逸れて行きついたのが政治学でした。そんな学生時代に、今でいうNPOやNGOのような市民運動に参加し、講演の司会や文章作成などを手伝う中で、自分の存在価値を見出せるようになりました。そして、それを機に「市民社会」という概念で世界中を比較検討する研究者になったんです。学生時代の活動を通じて、「自分に合うものを社会の中で見つける」ことができたから、今があるのかもしれないね。

Q 在学生に期待することは？

今は情報が手に入りやすく、知識を得やすい反面、情報の海の中で迷子になりがちな時代でもあります。迷子にならないためには、自分の立ち位置や方向性をしっかりしておくことが大切。すべての原点は自分なので、「自分を知る」ことを意識してほしいです。

新学長はとっても気さくで
親しみやすい先生でした！



理事長に聞いてみた！

100周年に向けての展望は？

東洋学園は
2026年で
100周年！



私がお答えしましょう！

学校法人東洋学園理事長
愛知太郎(あいち・たろう)
東京大学大学院工学系研究科金属工学専攻修士課程修了、東北大学大学院環境科学研究科博士課程後期修了。学術博士。同和鉱業株式会社、DOWAメタルマイン株式会社等に勤務、学校法人東洋学園評議員、理事を経て現職。

もうすぐ創立100周年を迎える東洋学園。
本学の理事長であり、実は東洋学園の創業者・宇田尚先生の曾孫でもある
愛知太郎先生に今後の展望を聞いてみました。

Q 理事長が思うTOGAKUのアピールポイントとは？

A やはり、「都会の真ん中」にあるという立地の良さ。近隣だけでも数十軒の企業があり、多様な人が働いていて、生きた題材にあふれています。重要なのは、そのシチュエーションをどうやって学びに活かすか、ということ。たとえば、「小規模大学」という個性を強みにして、3学部合同で企業とコラボしてみるのもいいかもしれません。現時点でスポーツインストラクターを目指す人間科学部の学生も、ゆくゆくは自分で起業したいと思うかもしれず、学部をまたいで経営を学んでおけば将来の可能性が広がりますね。今後も「都会の真ん中にある小規模大学」のメリットを活かして、学びを進化させていけたらと思います。

Q TOGAKUはこの先、どのように変わっていくのでしょうか？

A 施設面では、1号館屋上の喫煙スペースや5号館6階の空きスペース、グラウンドなどは改善の余地があると思っています。また、今後もオンライン授業を2〜3割は継続しようと思っているので、それに伴って学食の形態も変えていく必要があるかもしれません。でも、「こうすべき」という具体的なアイデアは私からは出てこないで、当事者である学生の皆さんにアイデアを出してもらって、できれば自分たちでやってみてほしいと思っています。これも「やってみる」ですね。私の役目は、皆さんの提案を受け入れ、予算面などで支援することだと考えています。良いアイデアがあれば前向きに検討しますので、ぜひ提案してくださいね。



愛知先生に質問するワースタのメンバーたち

Q TOGAKUのSDGsの現状や、今後の予定は？

A まず、省エネについては以前から取り組んでいて、学内の照明のLED化が実現しています。今後の課題は空調の整備。熱交換器を導入するなど、換気と省エネを両立させる方法を検討しなければと思っています。また、共生社会を目指して学内のバリアフリー化にも取り組んでおり、出入口付近にはスロープを設置。トイレも和式を撤去し、誰もが快適に使えるようにしました。

Q これからの大学生に必要なこと、期待することは？

A 私の意見は、「やってみる」こと。今はネットから多くの知識を得ることができ、皆さんは私が10年かけて得た知識を1ヶ月くらいで習得できるでしょう。でも、そんな時代だからこそ「知っている」だけでは差別化にならない。そこから先の「やってみる」ことが大切です。頭で知っているつもりでも、実際にやってみると予想以上におもしろかったり難しかったりするはず。そうした経験の中で、自分が本当にやりたいこと、やれることを探していってほしいと思います。

パーソナルな質問もしてみました！

Q 理事長の仕事内容とは？

A 理事長は、例えるならレストランのオーナー。料理のジャンルや方向性を決め、シェフを集めてきて、どうやってこのレストランを盛り立てようかと考えるのがオーナーの仕事です。私は自分で起業したわけではないので、今あるキャンパスや先生、職員の方々とともにどうやって大学を運営していくかを考えるのが役目だと思っています。

Q 大学生におすすめする本は？

A 私が製造業の仕事をしている時に読んで感銘を受けた本は、『失敗学のすすめ（講談社文庫）』。畑村洋太郎さんという東大の機械工学の先生が書いている本です。それから、月並みだけどマイケル・サンデルの『これからの「正義」の話しよう（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）』。これは哲学に関する本で、仕事に忙殺されている時期に読んで救われました。

Q 大学生におすすめする趣味は？

A こう言うともちろんないけれど、趣味は何でもいいと思います。いろいろやってみて、自分が気に入るものを見つければいいのでは。皆さんはこれから社会に出ていくと思いますが、人生は仕事ばかりじゃない。仕事を終えた後の人生も長いから、人生を豊かにするためにも、いろんな趣味を持つのがいいと思います。

☕ Break time

進化するTOGAKUの 現場を調査！

充実したキャンパスライフが送れるように、TOGAKUはより快適に、
おしゃれに、そして機能的に変わり続けています。
そんな進化の現場をワースタがレポートします。



Before

English Lounge

NOW!



みんなが使えるラウンジとして この春リニューアル！

1号館3階のEnglish Loungeがリニューアルを経て1.4倍の広さに。全体的に明るく優しい色づかいで居心地がよく、照明にもこだわっています。以前は英語に特化した空間でしたが、今後は幅広い目的に使えるスペースになり、秋学期には新しい名前が決定予定！もちろん、これまで通り“English Only”のLounge Timeやイベントの場としても活用される予定です。

インターンの2人に
新English Loungeを
案内してもらいました！



新English Loungeの5つのエリアをご紹介します！

Presentation Area



プロジェクターが設置されているステージ形式のエリア。イベントやプレゼンテーションに活用できそう！

Group Work Area



グループワークに使える大きなカウンターや、4人用のボックス席があるエリア。各席にはコンセントも完備！

Free Chat Area



自由におしゃべりが楽しめるメインスペース。電子レンジや自動販売機もあり、授業の合間や昼休みにくつろぐのによさそう！

Study Abroad & Information Area



留学や海外インターンシップ、ワーキングホリデーなどの資料が豊富。すぐ横に国際交流センターがあってスタッフに相談しやすい！

Personal Study Area



各席に吸音性の高いパネルが設置してあって、静かに集中して勉強できる。インターン&取材ワースタ2人のイチオシ！

インターンに会いに行こう！

Anytime. Anything.



We love to help!

English Loungeに行けば、今回案内してくれたインターンのAllyson(中央左)とMaslin(中央右)に会えます。「英語での話し相手、自習や宿題のお手伝い、IELTS™やTOEIC®のアドバイスなど何でも相談にも乗ります！在學生は気軽にメールしてね」と2人。

ココにも注目！



本棚に並ぶ英語の書籍や新聞は読み放題！コーヒーや紅茶も用意。



世界地図と各地の時間がわかる時計があり、グローバルな雰囲気！



エンカウンターラウンジ

昨年春にリニューアル!

在学生の活用状況や 要望をリサーチしてみた!

2021年3月に大幅リニューアルした4・5号館1階のエンカウンターラウンジ。以前は殺風景で人影もまばらでしたが、現在はおしゃれなカフェのように生まれ変わり、在学生でにぎわっています。利用者にアンケートを取ったところ、多くの人が「友達とおしゃべりの場」として活用しているようでした。

一方、今後の要望をリサーチすると、「食品の自動販売機を充実させてほしい」、「自習スペースを増やしてほしい」、「くつろげるソファ席がほしい」などの意見が聞かれました。



NOW!

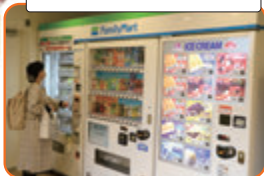
一番人気は自習スペース!



ラウンジ奥にある自習スペースは、個別ブースになっていて、「自分の世界に入って集中できる」と大人気。「照明の色が温かい」、「充電を気にせず作業できて安心」といった声も。

ワースタの
Tips

自販機にはみんなが
大好きなアイスもあるよ!



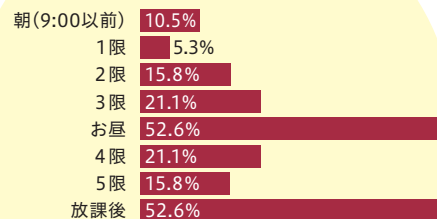
Before



みんなの使用目的 BEST3

- 1位 友達とおしゃべり
- 2位 食事/オンデマンド授業
- 3位 自習&課題

みんなは いつ使用している?



アンケート結果から、お昼と放課後が最も混雑することが判明!そこで、ランチは午前中に購入し、12時前または13時以降に食べるのがおすすめ。また、集中して勉強するのなら空いている午前中がベストです。

充電には電源プラグが必要です!



ワースタの
Tips

資格・キャリアステーション



水・木・金の
10時~17時までオープン。
予約不要です



資格・
キャリアステーション
スタッフ
尾作さん

資格取得をサポートしてくれる頼もしい施設を取材!

エンカウンターラウンジの奥にある資格・キャリアステーション。何ができる場所なのか知らない人も多いのでは?そこで、同施設スタッフの尾作さんに話を聞いてきました。「ここでは、資格全般の相談を受け付けています。どの資格を取ればいいのかわからない人も、目指す資格が決まっている人も、どんな人でも大歓迎。資格

のアドバイスはもちろん、一緒にスケジュールを組んだり、進捗状況のチェックなども行い、皆さんをバックアップします。学内で開講される対策講座もご案内できますので、気軽に相談に来てくださいね!

1~2年生のうちに資格を取っておくと、就活のスタート時点で履歴書に書けるからオススメ!



こんな支援が受けられる!

- どんな資格を取るべきかの相談
- 資格取得に向けたスケジュールの相談
- メールなどによる進捗状況のチェック
- 資格対策講座の紹介

すぐに役立つイチョシ資格

Microsoft Office Specialist (MOS)

→PCスキルが上がり、レポート制作にも役立つ!

秘書検定

→ビジネスマナーが身につく、就活にも役立つ!

Campus Xs (キャンパスクロス)

今春から導入された Campus Xsの活用術を調査!

この春から導入された学修支援ツール、Campus Xs。在学生はさっそく使いこなしているようで、「授業の管理に役立つ」、「昨日のあの授業の資料を見たい、という時にもすぐに探せて便利!」と好評を得ています。そんなCampus Xsのさらなる活用術を探るべく、ワースタがメディアセンター担当者を直撃取材!意外と知られていない便利機能「質問登録」や「学習実績」についてリサーチしました。

Campus Xsとは?

既存の在学生向けポータルサイトTG-Navilに続き、新たに導入されたオンラインツール。履修科目を登録すると、各回の授業がフォルダ別に表示され、先生が格納した教材や動画リンク、テストなどを素早く確認できます。

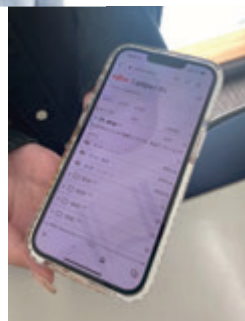
ワースタのオススメ活用術

「質問登録」を活用しよう!

履修科目の先生に直接メッセージを送れる「質問登録」機能が便利。先生のフルネームやメールアドレスがわからなくても手軽に質問でき、画像添付も可能。

「学習実績」は
しっかりチェック!

資料の開封率や閲覧時間などをまとめてチェックできる「学習実績」機能付き。授業の前後にしっかり確認して、資料や課題の見落としを防ごう!



オンライン配信室

電子黒板を使って教科書に
直接マークや書き込みを入れられる!



オンライン授業の拠点である 配信室にワースタが潜入!

TOGAKUでは質の高いオンライン授業を提供するため、動画教材の制作やライブ配信授業の拠点となるオンライン配信室を完備しています。普段は非公開のこの配信室にワースタが潜入しました!

室内にはカメラ2台にマイク、PC、照明、電子黒板などがズラリ。電子黒板は教科書や教材を映して、電子ペンで書き込みができる優れたもの。「伝わる授業」のために欠かせない機材が充実していました!

オンライン授業について、 先生と意見交換してみた!

オンライン授業のメリットって?ワースタが、オンライン配信室をよく使うという木村昭興准教授とざっくばらんに意見交換しました。

今回、オンライン配信室に初潜入してみても、機材の充実ぶりにびっくり!学生もゼミなどで活用できたらいいなと思いました



私は、オンデマンド授業は「能動的に学びきっかけ!」になると感じています。難しいと思った部分を繰り返し視聴したり、途中で止めて言葉や事例を調べたりできるので。先生はいかがですか?



オンデマンド授業では、分からないところを何度も繰り返し見ることで理解が深まります。聞き逃すことがあっても巻き戻せるので、自分のペース・タイミングで学べることもメリットですね。



オンライン授業には、「見やすい・聞きやすい」というメリットもあると思います。教室だと、席によって先生の声や資料が確認しにくい場合もありますし。先生はオンライン授業でどんなことを意識していますか?



できるだけ「ライブ感のある授業」を心掛けています。オンライン配信室には電子黒板やホワイトボードなどの機材が揃っていますし、教科書や資料に書き込みながら説明することもできるので。



オンライン授業では、チャットで質問することが多いですね。顔が出ないから、「対面よりも質問や発言のハードルが低い」と感じている学生も結構いて、それもメリットといえるかもしれません。



なるほど、それはあるかもしれませんね。また、オンラインの場合、互いに画面共有をしながらディスカッションできるので便利。PC上の資料を見せ合って討論する少人数の授業などに最適です。



オンライン授業は、対面と比べて先生との関係性を築くのが難しい、と感じることもあります。でも、今後はCampus Xs(ページ上部参照)が先生とのコミュニケーションに役立つかもしれませんね!



オンラインだと学生の顔が見えない分、教員も評価に悩むのは事実です。学生の皆さんにはCampus Xsやオフィスアワーなどを活用して、教員との接点を積極的に持ってほしいと思っています。

TOGAKU NEWS



学生たちの活躍や、学校からのお知らせなど
キャンパスライフにまつわるニュースをお届け！

最新ニュースは
こちら

卒業式

思い出を胸に社会へ羽ばたく—— 2021年度卒業式を挙行



2021年度の卒業式・大学院の学位記授与式を3/20に挙行了しました。まん延防止重点措置下での式典となった今年も、昨年同様、学部ごとに時間をずらし、卒業生・教職員全員がマスクを着用。なお、保護者の方々にはインターネットで高画質動画を同時配信しました。

式典後に行われたクラス別行事では、ゼミの担当教員が一ひとりに卒業証書を手渡し、新たな旅立ちを激励。学内のあちこちで記念撮影をしながら、仲間との別れを惜しむ学生の姿が見られました。



留学

活気づく留学シーン 長期留学や学部留学が再開へ

留学フェアの
様子はコチラ！



コロナ禍で中止や延期になっていた留学が再開の動きを見せています。昨秋には、本学国際交流センター主催の「留学フェア・座談会」が対面・オンラインで開催され、春の短期留学プログラムに関する説明が行われました。

また、今年の春学期より、長期留学(半年～1年)と国際キャリアプログラム(ICP)の学部留学が再開。英語コミュニケーション学科の2名がアメリカとアイルランドへ長期留学、ICPでは6・7期生8名がアメリカへ学部留学中です。今年2月には長期留学認定式とICPの留学結団式がオンラインで行われました。

なお、留学に関する新たな助成制度もスタートしています。詳しくは国際交流センター(1号館3階)にお問い合わせください。



入学式

「自分」を探す大学生活の始まり 2022年度入学式を挙行



2022年度の入学式を4/2に挙行。感染対策を徹底したうえで、3学部と大学院の新入生・編入学生が学部別に集いました。式典の冒頭では、今年4月から就任した辻中豊学長が式辞を述べ、「大学時代に『自分』を見つけてほしい」と激励。また、大学での新たな一歩を踏み出す決意を込めて、各学部と大学院の新入生代表が力強い宣誓を行いました。



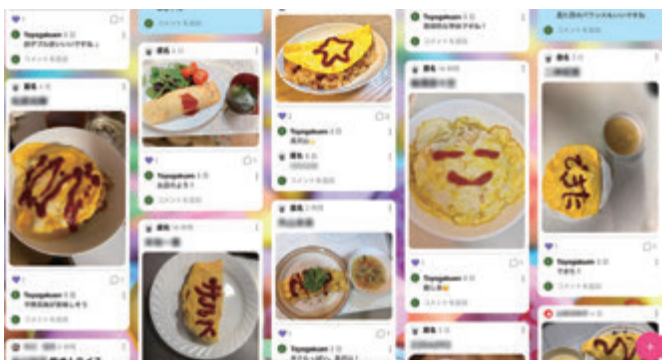
SDGsイベント

料理を楽しみながら フードロスについて考える



フードロス問題をテーマにした在学生向けのオンラインクッキングイベント「東学SDGsクッキング」が開催されました。このイベントは、本学の学生支援委員会と、家庭のフードロス削減に取り組む一般社団法人フードサルベージによる共催企画です。

Zoomで行われたイベントには80名の学生が参加。序盤はフードロスについての講演が行われ、「1年間で600万吨も食料が捨てられている」「自炊する人ほど食品ロスが多くなる場合がある」といったお話も。後半は参加者全員が自宅キッチンでオムライスとスープを同時調理する「サルベージパーティー(サルバ)」が行われ、冷蔵庫の残り物を活用するヒントを学びながら料理を楽しみました。



グローバル・コミュニケーション学部

対面での授業実践は1年ぶり！ 日本語教育実習を実施



今年2月、グローバル・コミュニケーション学部の「日本語教員養成課程」履修学生を対象に、日本語教育実習が行われました。コロナ禍の昨年はオンラインで実施したため、対面での実施は約1年ぶり。実習生たちは感染防止に努めながら、中国やベトナムなどから来日している日本語学習者と交流しました。

実習は東京・高田馬場にあるヒューマンアカデミー日本語学校(東京校)で行われ、本学からは3年生6名が参加。5日間の実習期間の中で、他大学の実習生と一緒に授業計画を立て、最終日には40分間の授業実践を行いました。また、2週間後の成果発表会では、実習の成果や今後の課題についてのプレゼンテーションを披露しました。



人間科学部

公認心理師課程の1期生が 心理実習を終えて卒業



心理職初国家資格として誕生した「公認心理師」。人間科学部では、2018年度より「公認心理師課程」がスタートしており、この春、第1期生が卒業しました。

1期生9名は4年次に「心理実習」も経験。主要5分野(保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働)の現場で、事前事後の学習も含めて合計80時間以上の学外実習を積みました。卒業前には成果報告会を行い、実習を通じてどんな学びが得られたかを後輩の前で発表。公認心理師を目指す在学生にとっては、先輩たちのリアルな体験談を聞く貴重な機会となったようです。



現代経営学部

多彩な産学連携プロジェクトで ビジネスの現場を体感！



現代経営学部の各ゼミでは、昨年度、多彩な企業とのコラボプロジェクトを実施。ゼミ生たちは、自らが考えたマーケティング戦略やアイデアを企業の方々に提案する中で、生きたビジネスを学びました。そんな産学連携プロジェクトの様子をお伝えします。

マーケティングとメディア研究ゼミ(八塩圭子教授)

東京メトロポリタンテレビジョン株式会社(TOKYO MX)とコラボし、3年生4チームが「Z世代にもっとTOKYO MXを見てもらうためのアイデア」を提案。TV局を見学し番組制作の舞台裏にも触れ、昨年12月に社員の方々に向けた戦略のプレゼンテーションを行いました。



マーケティング戦略／プロジェクトマネジメントゼミ (本庄加代子准教授)



ベルギーの家具メーカーである株式会社SIXINCHジャパンと連携。ゼミ生たちは同社のブランド戦略について研究したうえで、Instagramを活用したSNSマーケティングを提案し、実際にSNSでキャンペーンを実施しました。



新商品開発ゼミ(安藤拓生准教授)



トレーラーハウスのデザイン・開発を手がける株式会社カンパランド・ジャパンと連携。ゼミ生たちは「これからの社会における『動産』の価値を提案する」をテーマに、トレーラーハウスの新たなビジネスアイデアを提案しました。



先輩たちの
卒論テーマの
見つけ方を特集！

卒業論文発表会

各学部の卒業論文発表会を開催 WEBで特集記事を公開中！



毎年恒例の卒業論文発表会が昨年度も行われました。発表会は学部ごとに行われ、各学部の代表者が素晴らしいプレゼンテーションを披露しました。

4年間の学びの集大成である卒業論文。その制作にあたって、要となるのが「テーマ選び」です。本学のホームページでは、先輩たちが「どのように卒論テーマを見つけたのか？」を探った特集記事を公開中。ぜひ参考にしてみてください。



学部長賞

資格試験に合格した 14名に学部長優秀賞を授与

本学では、資格試験や大会等で優秀な成績
を取めた学生に学部長賞を授与しています。
昨年11月～今年3月の表彰は右記の通りです。



【学部長優秀賞】 ※学年は授与時(順不同)

■令和3年度宅地建物取引士資格試験合格
人間科学部2年 山本泰史

■メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種
(ラインケアコース)合格
人間科学部4年 坂口沙弥
人間科学部2年 古川結菜

■第14回一般社団法人 日本心理学会連合認定
心理学検定合格

人間科学部3年 安藤彰吾(1級合格)
人間科学部2年 仲亀詩織(1級合格)
人間科学部4年 長嶋拓郎(2級合格)
人間科学部4年 柳澤芽衣(2級合格)
人間科学部3年 田中瑠斗(2級合格)
人間科学部3年 藤井悠(2級合格)
人間科学部2年 丸道義(2級合格)
人間科学部2年 岩本勇人(2級合格)
人間科学部2年 河村優作(2級合格)

■中国語能力試験(HSK) 4級・5級合格
グローバル・コミュニケーション学部4年 植木周平



学生の活動

学生発のSDGsプロジェクト “ゴミプロ”が進行中!

現代経営学部の有志学生6名が立ち上げた「日本ーゴミの出ない大学プロジェクト ～トーガクノミライヨカエヨウ～ (通称“ゴミプロ”)」。その名の通り、「TOGAKUを日本ーゴミの出ない大学にする」ことを目標に活動を進めています。本学のホームページでは、“ゴミプロ”についての特集記事を公開中。ぜひご覧ください。



“ゴミプロ”の
活動内容や
メンバーの想いを
チェック!



学生団体

新入生も在生もウェルカム! クラブ・サークル活動にぜひ参加を



Steppers (ダンス)、Heavenly (音楽)、ESS (英語研究)、劇団ハレっケ(演劇)など計13団体が参加し、新入生に向けて活動内容のプレゼンテーションやパフォーマンスを行いました。

在学生向けホームページ「学生団体あれこれガイド」には、学生団体の一覧も掲載中。ぜひチェックして、興味がある団体のSNSにアクセスしてみてください。

「学生団体
あれこれガイド」は
コチラ!



大学間協定

課外活動等における相互交流協定を 文京学院大学と締結

本学と文京学院大学は、同じ文京区内の大学として、かねてより大学間交流を行ってきました。これまでも単位互換協定を結ぶなどしてきましたが、2022年度は新たに「文京学院大学と東洋学園大学との課外活動等における相互交流に関する協定」を締結。クラブ・サークル活動や学生主体のイベントなどを通じた学生間交流を活性化させるとともに、両大学の学生支援のさらなる充実を目指します。



公開講座

2022年度のテーマはSDGs 公開講座を対面・オンラインで同時開催

都心で、学問領域にとられない幅広い教養(リベラルアーツ)を学ぶ東洋学園大学の公開講座。2022年度は4/30よりスタートし、8/6までの全7回を予定しています(無料)。今年度のテーマは、持続可能な開発目標“SDGs”です。より多くの方々へ生涯学習の機会を提供すべく、アクセスのよい東京・本郷キャンパスでの対面講座とオンラインでのライブ配信とのハイブリッド形式で開講します。詳しい日程やお申し込み方法はQRコードからご確認ください。



2022年度初回の模様

TOGAKU SPORTS

コロナ禍に負けず、男女テニス部は4月から公式戦(春関)に出場!
硬式野球部は、悲願の2部優勝・1部昇格を目指して春季リーグで奮闘しました。
また、ダンススポーツ選手の大西咲菜さんは、競技+αの活躍も見せています。

最新情報は
こちら!



男女テニス部

“春関”には部員全員が出場! オープン大会準優勝者も

4月時点で男子14名、女子1名が所属するテニス部。週5日、練習に励み、各選手が着々とスキルアップしています。主将によれば、注目選手は小野海斗選手(3年)と佐々木正望選手(2年)とのことです。

ここ2年間はコロナ禍の影響で中止となる大会が多かったものの、今年は4月から「関東学生テニストーナメント大会(春関)」が開幕。さらに、小野選手がオープン大会で準優勝するなど活躍を見せています。

秋には2年ぶりに「関東大学テニスリーグ(団体戦)」も開催予定。本学は男女ともに3部リーグに所属しており、2部昇格を目指して戦います!



男女テニス部主将
郡司龍美さん(人間科学部4年)

東洋学園大学テニス部の強みは、上級生が中心となって部員自身が主体的に練習メニューを組み、メリハリある雰囲気を作ろうとしていること。部員は皆テニスが好きで向上心があり、自主練にも積極的です。人数が多いとは言えませんが、その分、練習でたくさん球数を打てたり、下級生に目が届きやすいというメリットもあります。
新1年生はもちろん、在学生の中途入部や体験・見学も大歓迎です!マネージャーも男女ともに募集しています。初心者でも、レベルに合わせたメニューや活動しやすい環境を作っていきたいと思っているので、興味のある人はぜひ一度、体験・見学に来てください!

硬式野球部

1年生26名も加わった新チームで2部優勝・1部昇格を目指す!

硬式野球部の部員数は、4月時点で71名。東京新大学野球連盟の2部リーグに所属しており、4月に開幕した春季リーグ戦では、5/8(日)の時点で開幕7連勝! 単独首位となっています。

今年のチームスローガンは、「戮力協心(りくりよくきょうしん)」。心を一につに力を合わせ、2部優勝・1部昇格を目指しています。主将によれば、今年は能力の高い投手が多いとのこと。また、冬場に打撃強化やバント練習にも力を入れたとのこと、攻守ともに期待が持てそうです!



145kmを投げる注目投手、池田選手



硬式野球部主将
中松武哉さん(現代経営学部4年)

去年の秋季リーグ戦では、惜しいところでリーグ優勝を逃したので、今季こそ2部優勝・1部昇格を達成したいです。応援よろしくお願いします!
野球部は、規律を大切にしながらも明るく活気あふれるチームです。普段は東洋学園大学グラウンドで練習していますが、火曜日は4号館地下のトレーニングルームにいますので、仲間になりたい人は気軽に声をかけてください。プレイヤーはもちろん、学生コーチやマネージャーも募集中です!

ダンススポーツ (個人)

競技シーンはもちろん メディアでも大活躍!



昨年は世界選手権に日本代表として出場、三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権のスタンダード部門で優勝を果たすなど、日本トップクラスのダンススポーツ選手として国内外で活躍している大西咲菜さん。4月、海外遠征から帰国したばかりの大西さんに話を聞きました。

「7月にアメリカで開催予定のTHE WORLD GAMESに日本代表としてノミネートされました。今年の目標は三笠宮杯で2部門制覇することと、世界選手権でベスト24以内に入ることです」

直近では、4月にダンススポーツグランプリ(熊本・京都)、6月には全日本10ダンス選手権大会に出場予定とのこと。さらに、auの動画広告「#ハタチが未来をつなぐぞ」にも出演するなど、活躍の幅を広げています。



大西咲菜さん
(グローバル・コミュニケーション学部3年)



じきょうやまず #自彊不息でいこう

Vol.3

「自彊不息」とは、「日々の努力を怠らず学びに励むことで成長し、社会を変えていく人間になってほしい」という願いを込めて継承されてきた東洋学園大学の建学の精神。

このコーナーでは、個性豊かな学生たちが「自彊不息」を受け継ぎ、毎日の小さな努力を積み重ねて一歩ずつ成長している様子を紹介します。



国際支援を目指す
私の自彊不息は
コーラス！

後藤 瑠花さん
(グローバル・コミュニケーション学部4年)

中学2年生の時に「国會議員と15人の15歳が15年後の世界と日本を語り合う」に参加し、「将来は貧困地域の子どもの支援に関わりたい」と決意。大学では夢の実現に向けた学びに注力しつつ、小学5年生から続けているコーラスも継続。「歌なら世界中の子どもとコミュニケーションが取れる」との想いも練習の原動力となっているようです。卒業後は日本語教師として国際経験を積み、JICAの海外協力隊を目指しているそうです。



年間テーマ(全6回)

ウェルビーイング

聴講無料

事前登録制

10/12
(水)

ISHIZAKA

対面 オンライン

Sustainability から Regeneration へ
～ Zero Waste Design の実現に向けて～

石坂産業株式会社 代表取締役

石坂典子氏

10/26
(水)

WLB

株式会社ワーク・ライフバランス

オンラインのみ

ウェルビーイングを実現する
働き方改革

株式会社ワーク・ライフバランス 代表取締役社長

小室淑恵氏

11/9
(水)

Marubeni

対面 オンライン

既存の枠組みを超える
丸紅の取り組み

丸紅株式会社 専務執行役員 CAO

石附武積氏

11/16
(水)

.WE LEAGUE

オンラインのみ

スポーツ界からジェンダー平等を実現する
—WE リーグが描く未来

公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ (WE リーグ) チェア

岡島喜久子氏

11/30
(水)株式会社
良品計画

対面 オンライン

無印良品の
経営理念と事業展開

株式会社良品計画 取締役副会長 (兼) 執行役員

松崎 暁氏

12/14
(水)NISSAN
MOTOR CORPORATION

対面 オンライン

日産のサステナビリティ活動を通じた
企業価値向上の取り組み

日産自動車株式会社 専務執行役員 チーフサステナビリティオフィサー

田川丈二氏



参加申込はこちら(対面・オンラインとも)

開催場所 文京区本郷 1-26-3 東洋学園大学 1号館

受講料 無料 1回のみ参加可



対面聴講の定員は 80 名程度でお申込みが定員を超過した場合はオンライン聴講をお願いする場合がございます。また感染症状況により、急遽オンライン聴講のみの講演になることも予めご了承ください。それぞれ下記 HP にて最新情報をご確認ください。

お申し込み方法 下記 URL にアクセスし、各回の前日までに申し込みフォームよりお手続きください。
www.tyg.jp/koukaikouza/business/

お問合せ 東洋学園大学総務課 ☎03-3811-1696

東洋学園大学

お問合せ

東洋学園大学総務課

☎03-3811-1696 www.tyg.jp

著作権者の許諾が得られない書類等

1（書類等の題名）

資料 4 採用と大学改革への期待に関するアンケート結果

2（出典）

日本経済団体連合会

3（引用範囲）

採用と大学改革への期待に関するアンケート結果（P.4、P.11）

https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/004_kekka.pdf

著作権者の許諾が得られない書類等

1（書類等の題名）

資料 5 高等教育を軸としたグローバル政策の方向性

2（出典）

文部科学省

3（引用範囲）

高等教育を軸としたグローバル政策の方向性～コロナ禍で激減した学生交流の回復に向けて～（P.23）

https://www.mext.go.jp/content/220725-mxt_koutou03-000024166.pdf

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	ツジナ ユカ 辻中 豊 ＜令和4年4月＞		法学博士		東洋学園大学学長 (令和4年4月)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。